



河内名所圖會

後篇下

ル 4
2472
6



阿比呂
番 2472
巻 6 止

河内名所圖會卷之六

讚良郡

慈眼寺

本堂
羅漢堂

阿彌陀堂
鐘堂

藥師堂

牛頭天王

太子堂

駒山

深野池

龍間寺

龍光寺

竜間川

棟正行墓

長歌碑

和田源秀墓

雁塚

國中神社

清滝嶺

清滝溪

龍尾寺

須波麻神社

御机神社

飯盛山

飯盛山城

氷室址

忍岡

津鉾神社

高宮神社

大杜祖神社

細屋神社

秦氏墳

鍛冶行綱宅址

茨田郡

寝屋川

徳菴川

高瀬川

高瀬淀

高瀬里

高瀬神社

常福寺

石塔墳

小澤文庫

彫工井上治兵衛

堤根神社	名産糟菜	大窪莊中西家	神寶	大歲祠	古川	蹉陀川	龍光寺	意賀美神社	伊加賀	牧方故城	西本願寺御坊	監船所
野口	三社權現祠	佐太	來迎寺	茨田池	絶間池	蹉陀池	光善寺	百濟王女墓	山崎院趾	牛頭天王祠	鷹塚山	名産蓮
勿入淵	白山祠	依太天満宮	堂	茨田故堤	杉子絶間址	蹉陀山	大塚	宦女塚	牧方驛	萬年寺	蔵ヶ谷	西氏
守口驛	津島郡神社	社天神	文祿堤	供御領	蛇池	蹉陀山天満宮	三ツ井	膳塚	御茶屋	東本願寺御坊	牧方渡口	

巖船	住吉祠	星石	獅子窟寺	天福石	虎嘯石	觀音寺	氷室趾	梅塚	平塚	觀音寺	穂谷川	博士王仁墓
交野郡	星田寺	八幡宮	蒙盆女址	須弥寺	私部故城	本塚	元寺瀧	津田故城	尊延寺	國見山		
鮎返滝	妙見山	旗立松	明光寺	嬰児山	光通寺	中塚	交野山	三宮	杉妙泉	小山墓		
妙見祠	星田尊蹟	奉掛堂	皇石墓	傍尔川	長寶寺	満家	機物祠	觀見池	明尾寺	安樂寺		

山田池
鳥立原
百済王祠
郊祀壇廢蹟
渚杜
久須美神社
葛葉野
繼繩別莊
百済王廢仲

大池
百重原
中宮池
波瀲院古蹟
渚岡
二之宮
樟葉宮
弥勤寺址
文黑磨

天
車
宇久米塚
交野神社
舟橋川
楠葉渡口
帳掛松
黃金橋

交野原
和田寺
長者故居
一之宮碑
片足羽川
釋迦堂
百済王敬福
洞ヶ嶺

逐日のまゝさへ不素一
龍尾花らん
難波人の手にあ
水あうめわき歩り
海浜ゆくふさこ乃
イウぞくねも
春乃無うり

みくま
寒
日くれの
山様

来山





野崎觀音
天王社

讚良郡

讚良郡

東と和州平郡郡の界小至るゐる、南と河内郡の界小至るゐる、北と交野郡の界小至るゐる、

新撰六帖

けふの事もさう此河内路小狹をさめてけふもさうけふ

行家

福聚山慈眼寺

聖徳太子あり

牛尊十一面觀音

唐作長三尺六寸又三十三所觀音像に口君の像

藥師堂

牛堂の南

阿弥陀堂

某昨堂の傍あり

羅漢堂

十六羅漢四天王

鐘堂

某の傍

寺

支那山と南天竺波羅奈國大悲の聖蹟を摸して古刹とす

幸年既小

今小至る寺前乃澤人吟ん波羅奈澤

少の惜哉

中古以来傳記喪びく只郷童の口碑証とす

故小開闢

の年代幸實詳るべし大悲の像も何人の跡とす

寺宇の權輿

も分明なり一院院宇小狹別難波にん

渡口小

一と也この後客飯食を女あり世小とす

に口君と

ある付沈病小罹る醫療の驗ありふか一常小

聞る

と和州初瀬寺の觀音靈應殊小勝とせぬ既ふかの地り

悉哉

一と懇小勝王一七日満願の時靈驗感む瑞巖と高僧

来り

曰河内野崎福聚山と我小異なり其所の大悲小懇

求せば

所願空一かに妓女愛覺る歡喜一直小房とす

来り

牛尊弘教禮七晝夜満めれを忽病癒治金にこれり

傳聞

と四來の緇素遠村近郷と小群れ又野崎を去る

二里許

あり御供田と名げるものも當寺の設け宛ぬ

厥后

龜山寺の朝小權大僧都實慶尚小寺職して弘長

元年

小寺記を書り又伏見院の時時沙門入蓮とす

恒

一と表弊弘くあり力を優婆塞泰氏小勸くを修

せ

所は時小立石塔婆今小存れ又其後永祿八年松永

久秀

志貴塔小築り近隣勅札の時佛國兵發小罹る

灰燼

なり牛尊實慶寺記の遺り其より今の

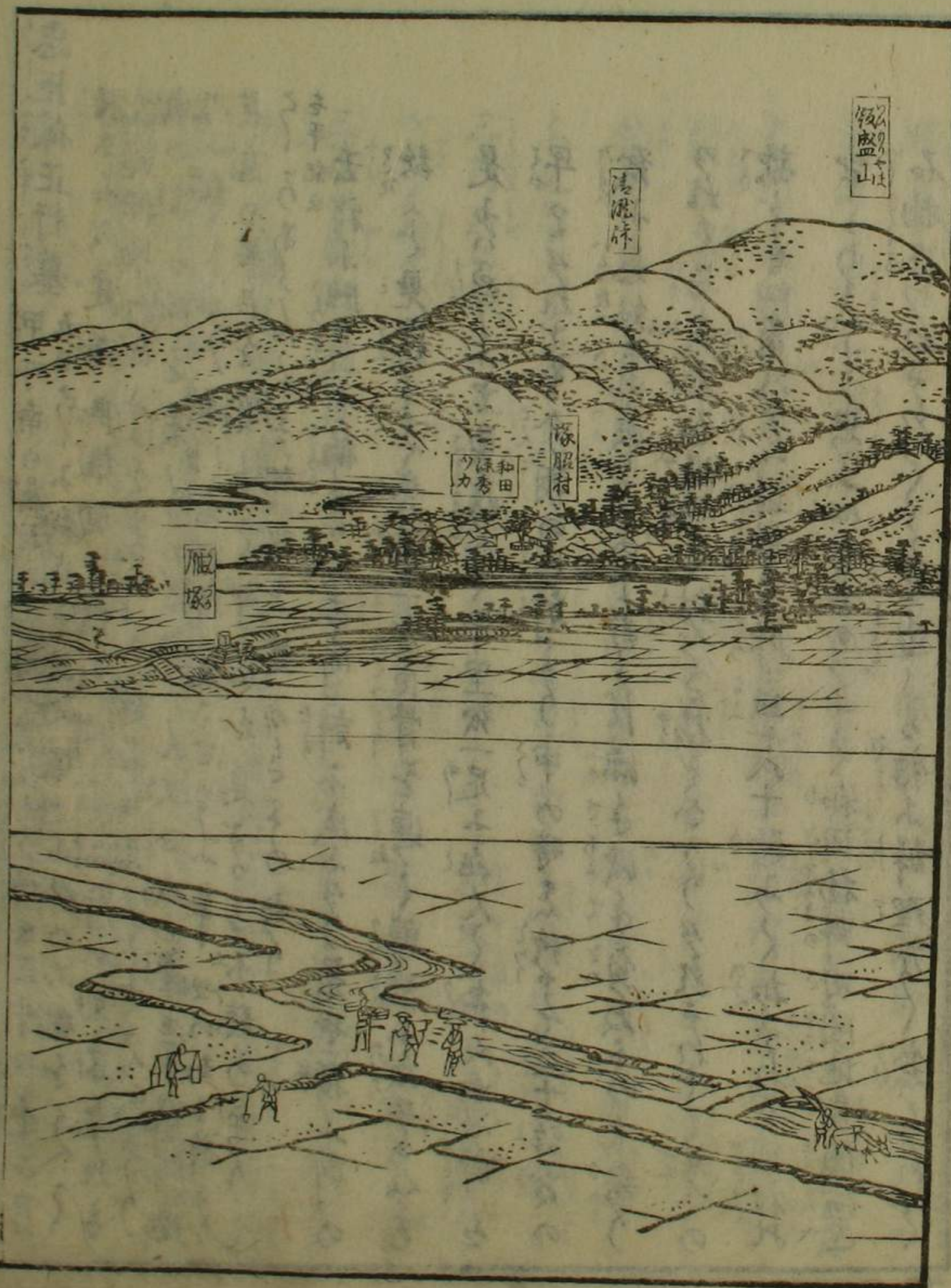
卷之五



龍尾寺



かく再營ありまき無縁経々々々接花白く頂秋を紅葉し
 て山之瑞あるふー浪花津の老少あふ小群ある川舟り
 掉りて道ゆく人々言葉戦ひ々々諸る米多一是と時高春と云
 牛頭天王社 生主神あり
 太子堂 旧村あり聖徳太子の像あり本願寺宗汎
 駒山 諸本森あり
 深野池 旧村あり新田あり
 龍間寺 龍超山と号し
 本尊千手観音 長式尺のみ寸什寶小
 龍光寺 龍超山と号し
 本尊十一面観音 秘佛あり寺の敏達帝の岡基ふー々々伽藍巍々々々
 兵火より類廢し 本尊の如くありと云々度々々
 の玄光再興し
 竜岡川 川より一名寺川と云々
 寺川村を隔く三ヶ村あり度々々

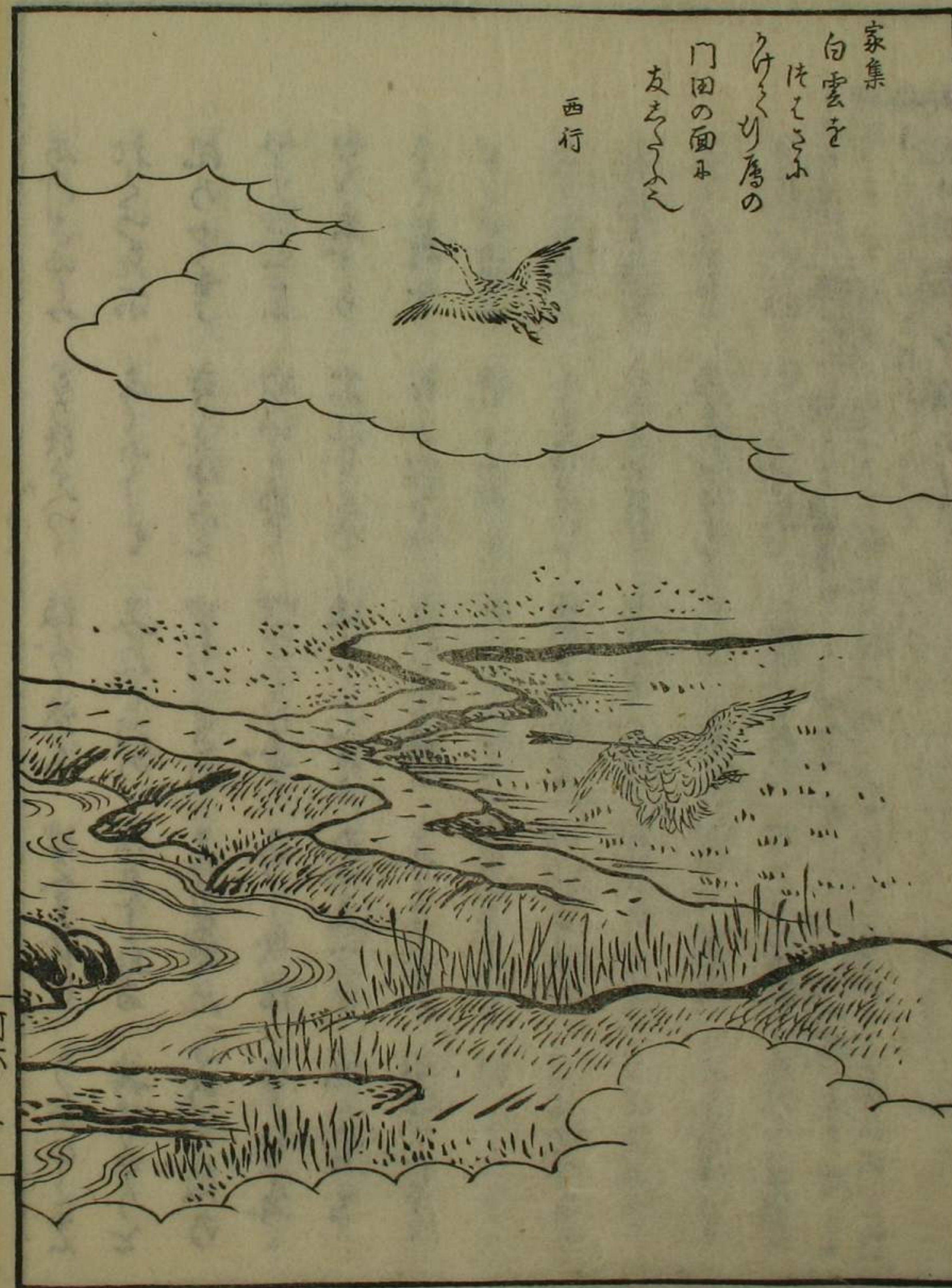


楠正行墳
雁塚

忠臣楠正行墓

甲子年の属村郡屋村の東にあり傳云証平二年四月五日... 是れ也... 早てこれども今朝の已刻より申の時迄終て二十餘度の... 石揃丸けれんくも我進る餘小群理なくゑられく

師直已ふ司也小見之る安ふ九國の役人須々本四郎とて強き... 矢はさ早三之張ふ十三本二伏百歩小柳の葉にまき百矢と... 三折右の頬先虎の目尻篋深小射られく其矢を野の霜小臥る... 三筋四筋射られぬものも無り乃れ今も是と我欲の事小あふ



雁塚 中野村田圃の中ふあり寛延二年
寺尾氏石標に建る

國中神社
中野村あり延喜式出今天神と稱は
は地の生土神と云

清きよ滝たき川がわ源げん水みづ入いり山やま出で甲こう可か南なん孤こ經けい河が内ない村むら小こ至いたり

龍尾寺
甲可南の属校
禅宗

奉爲十一面觀音
春日の佐長三三寸初々好基の開基く高ふ
栗白の形小くうとて整ふ栗白の親もとみよ

須波府神社 秋金鞍延喜式出中 塩皮村

河六十一

御机神社中野村の属邑大上不あり延喜式出

飯盛山ひりやま 北條村の東にあり 山頂圓ふして秀峯樹森鬱々平田章

補心行高
 降恭しうしう幾く直

山の名れ飯よりぬきい五畿内ごきいの河内かふち彌やふて焼やきやあゝ人
栄貞

飯盛山城 建武の末傍心憲法より小籠子陣掃心成敗くられ取
正平三年 高脚直より小陣掃心成敗くられ取

信慈畠山のうみ眼め高たか弘ひろ補おぎな了り天正二年四月
 遊

上田原村等ふくむ保址あり
遼作信藏翁の孫に傳田候の藩に候也
佐又那境三个村

水室址
今
室
池
と
う
な

忍岡 岡村の一名ありけふ山ふ長久の松とくく大樹あり 又長の末之松
騷擾の時東軍くくに屯け今困初

旧跡なり

新後撰
中の人ふたうとくらしく郭公ひとり志す所の是ふ情らん
法印覺寛

見—くも夢ひの曇乃花す—きむひくいまのくう此社をれ
護人々々ん

津樺神社 いかわのしんま
 畠山の属村阿比 あひ 延喜式出

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the page.

郡田茨

高宮神社 高宮村あり延喜式曰大月次新嘗三代實祿云

高宮大社祖神社 高宮村の東にあり

細屋神社 延喜式小瀬田郡小八を秦村小あり今天神と稱す

秦氏墳 秦村小あり土人秦川勝の塚と云

鍛冶秦行綱宅址 秦村小あり相傳後多羽上皇諸別の名通を

茨田郡 東に瀬良郡の界小至り西に淀川を界小至り南に

寢屋川 源安野郡星田山の東より流きて寢屋村の東に流きて又

德菴川 寢屋川の支流寢屋村小至りて德菴川といひ塘瓜德菴

高瀬川 淀川の下流小瀬川を源とし高瀬村を源とし高瀬川といふ

見りてせむ末せむる高瀬川といふぬぬ月毎の流 源平光

高瀬淀 日所を

あはさふ高瀬の淀のまを竹とてふてぬ神とて

あを松とて高瀬の淀にまを松とてあを松とてぬ松とて

いへせう高瀬の淀のまを松とてあを松とてぬ松とて

あを松とて高瀬の淀のまを松とてあを松とてぬ松とて

高瀬里 世本村馬場村

高瀬神社 世本村馬場村の生土神といひ延喜式出今八幡と稱す

常福寺 世本村小あり高瀬とて号す

本尊阿弥陀佛 長八寸 藥師佛 長八寸許

石塔塚 南寺村小あり土人新泉式社の塚といふ

天みくろ
神光
むろりや
やえ
依吉の
月北
うきけ
柳子

大御宮
受宿

石牌
山宮文六神

[illegible]

佐太天神
馬場前



堤根神社

常祢寺村あり延喜式出今又満宮と稱ははる常祢
例皇九月十五日傳小神宮寺あり

野口

常祢寺の隣村
夫本

新六

涉野せれ野の尾えかひくを羽風とけえ海とふの春
あゝり野の里ふ宿めて道の芝生ふ今せれり
信實

勿入

諸福村あり土人内助とて又日村ふ千町とて
あり今お綴して名なを

守口驛

松列東生那の界まで西南十二町あり山列の界橋金橋あり
驛まで通計五里十二町とてを系街とて

名産糟菜

守に村より出る長菜蔵茄子此の豆の粒を多く糟菜と
て四方ふ貨ふられを守に馳せり

三社権現祠

は色の生土神とて
は番村の中ふあり相屋喜町の神一亩村と三麦村

白山権現祠

六番村の中ふあり相屋喜町の神一亩村と三麦村
に番村等の生土神とて例皇九月廿日

津島郡神社

登穀延喜式出金田村ふあり嘉祥三年十二月從
五位下弘授く南村と野馬に村と共ふ生土神とて

大窪莊中西家おんくぼのちやうしやうのいへ大窪莊あり中西四郎範顯の後裔ありしやうしやうのいへ其後尾張亞細源義

直卿ちやうけい由緒ありしやうしやうのいへ勤仕を代々大坂の尾羽郎おしやうのいへ郎令らうけいやる所

佐さ太村たむらの名ありしやうしやうのいへを妻と佐とありしやうしやうのいへ二太村三太村ふたむらさんむら北十太村きたむらの属邑ありしやうしやうのいへ南

十太村じゅうむら日ひ村むらの名ありしやうしやうのいへ大坂金城要害の軍勢おおいさかきんじやうえいがい防衛ぼうえいを多ししやうしやうのいへ名々ありしやうしやうのいへ

佐さ天満宮てんまんぐうありしやうしやうのいへ中門なかつかどありしやうしやうのいへ馬場うまばありしやうしやうのいへ所ところありしやうしやうのいへ

祭神まつりかみ菅大臣くさだちじん御神みかみ本像ほんざう長式ちやうしき尺許ふちをり比ひの生土神なまどけとしやうしやうのいへ例れいありしやうしやうのいへ

大自おほみづかみ在天神てんじん好文こうぶん天神てんじん奉社ほうしゃの右端みぎはし白しろ左文ひだりぶん祠ほありしやうしやうのいへ

末社すえしや中門なかつかどの外うへありしやうしやうのいへ後水尾院ごみづおのえより二枝ふたえだの梅うめを賜たまはふしやうしやうのいへ当社とうしや神本かみもと

勅ちく梅うめ社しやありしやうしやうのいへ又また御製みせいの和奇わきありしやうしやうのいへ後水尾院ごみづおのえ所ところありしやうしやうのいへ

家の風世々いへのかぜふしやうしやうのいへ神垣かみかきありしやうしやうのいへ梅うめありしやうしやうのいへ

竹内御門たけうちごもん主良尚親王しゅらしょうしん御書ごしよ曰いわ河内かみ佐さ宮みやの菅神くさかみの廟みやう形かたちありしやうしやうのいへ志しありしやうしやうのいへ近代きんたい社しやありしやうしやうのいへ

祭典まつりの儀式ぎしきも新あらたありしやうしやうのいへとしやうしやうのいへ水井信則みづいしんじやくを守まも尚政朝臣しょうせいしやくしん再興さいかう也なり

けより壯麗さうれい因よ式しき集あつひ見みる者ものを尊うやまつと聴きるのそりせむ

その頃

太上天皇すくねてんかう百和香ひやくわかう小梅こめい乃なり折枝せしをそへしやうしやうのいへ尚政朝臣しょうせいしやくしん小梅こめいありしやうしやうのいへ

一ひとを神かみの庭にわふしやうしやうのいへ瑞みづ鏡かがみのうう物ものとしやうしやうのいへなれしやうしやうのいへ小梅こめいありしやうしやうのいへ

清製せいせい成尚政朝臣しやうせいしやくしん乃なりたしやうしやうのいへ小梅こめい納の之内陣のちのじん乃なり賣物うりもの也なり

瑞みづ鏡かがみのうう物ものとしやうしやうのいへなれしやうしやうのいへ小梅こめいありしやうしやうのいへ

わかれしやうしやうのいへ後ごを登のぼいしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへ彼御製かのみせい此こ由よし來きたぬしやうしやうのいへ

はくしやうしやうのいへつしやうしやうのいへれしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへ

あしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへあしやうしやうのいへりしやうしやうのいへ

慶安元年けいあんげん大呂だいりょ念ねん五ご

北野寺きたのてら勢せい二品にひん親王しんおう良尚書らうしやう書しよ之これ

柞くさ當たう社しやの勅ちく書しよを年とし歴れき久きう遠えんありしやうしやうのいへとしやうしやうのいへ其その監かん觸しやくさしやうしやうのいへりしやうしやうのいへとしやうしやうのいへ其その文ぶん安あん

三年さんねんの社記しやきを存ぞんししやうしやうのいへ願がん后ご荒あら蕪うとしやうしやうのいへてしやうしやうのいへ社頭しやとうを神かみとしやうしやうのいへびしやうしやうのいへ瑞みづ鏡かがみもしやうしやうのいへ

らうりり一紙慶安元年南境宇原城列淀城主永井信濃守尚政
 彦菅神を尊崇し一再び社檀瓜新小菅なる其より神威いさぐ
 して社頭玲瓏より其頃 太上天皇 後水尾 名香小二枝の梅を
 副く市奈附ある其頃る卯月の末はうさ形り一社前乃梅小
 二木の枝を接し一が勅のおりれあや神徳のあらあや不思議ある
 哉二枝俱々婉然と葉く時う然花咲實瓜結びより大君の市惠ふ
 御製の市威徳哉と神も梅もあけありしやや四方の人々これを
 敬して感激瞻ふ終トお膳乃人群をさす社頭のあら淀乃
 流きの川源舟載るくはく登ゆるくはく汀を舟の中より
 高居乃教止るくと見るとる遠海してりるも多かりん
 菅公の市神傳を旧記小詳を今文よりあはれりるも及らるる
 都名所圖會小野の市社の部下に記してあり
 渡唐天神像 藤原氏の帝市子孫より續きけられり市厨子のあ
 りる小野小町 在原業平卿のあむ 東極門院市備画
 市判あり

近衛關白信尋公 其文云

河内國佐多より所より年毎小聖廟の法樂は連歌せしふ
 この年半ありく絶るを今ゆきい無くそそ新らんより
 つひより幾白不きふそのふけりりりふ

神やそふそこれとふそ乃花盛 近衛信尋公

梨地御香合 蓋上皇より尚政朝臣小賜ふはく小寄附に

菊畫 竹門良尚親王の市筆 同市真筆よりああり

秋の聖北条の色くも名くは花の葉れ一りや 良尚親王

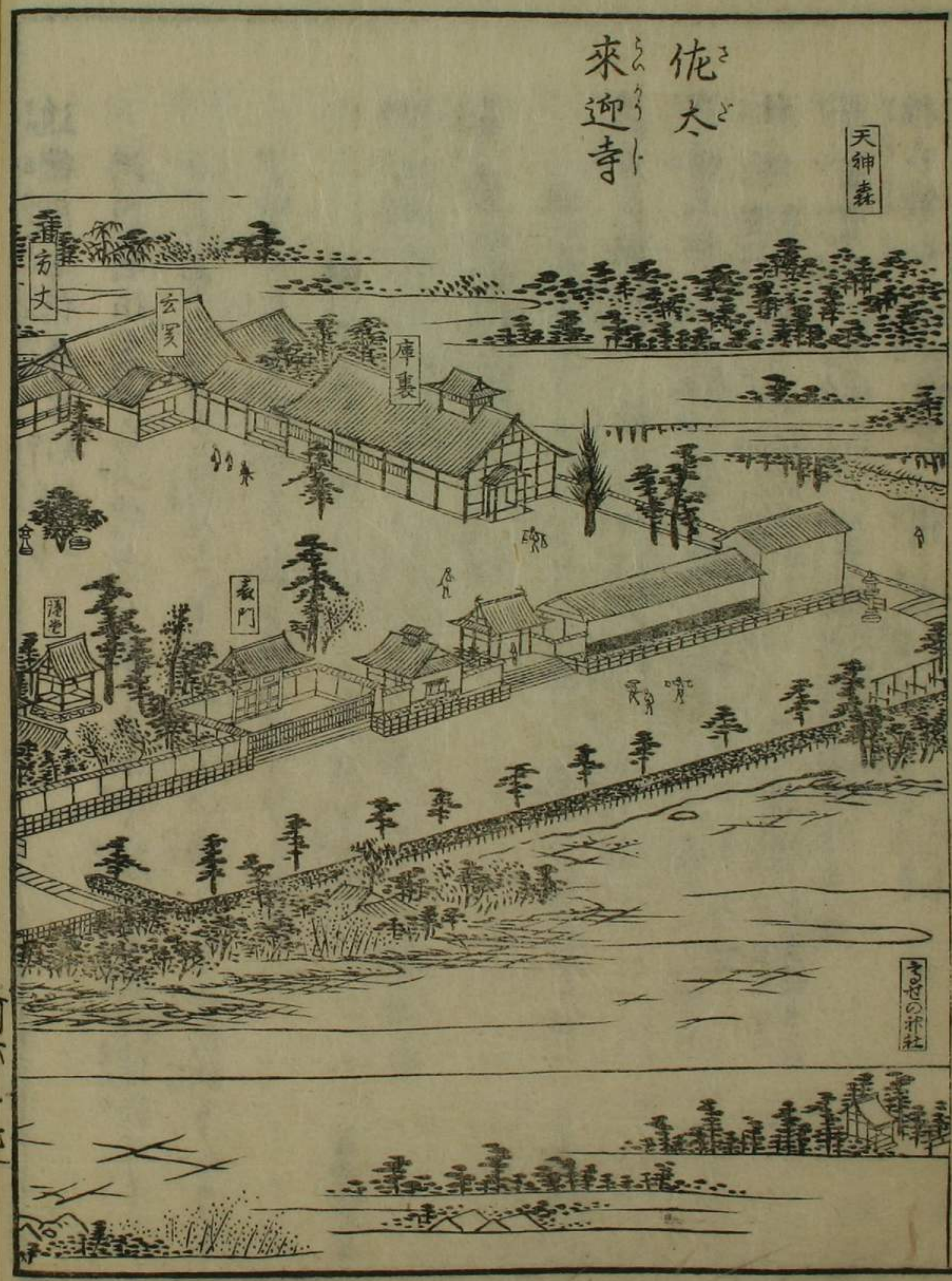
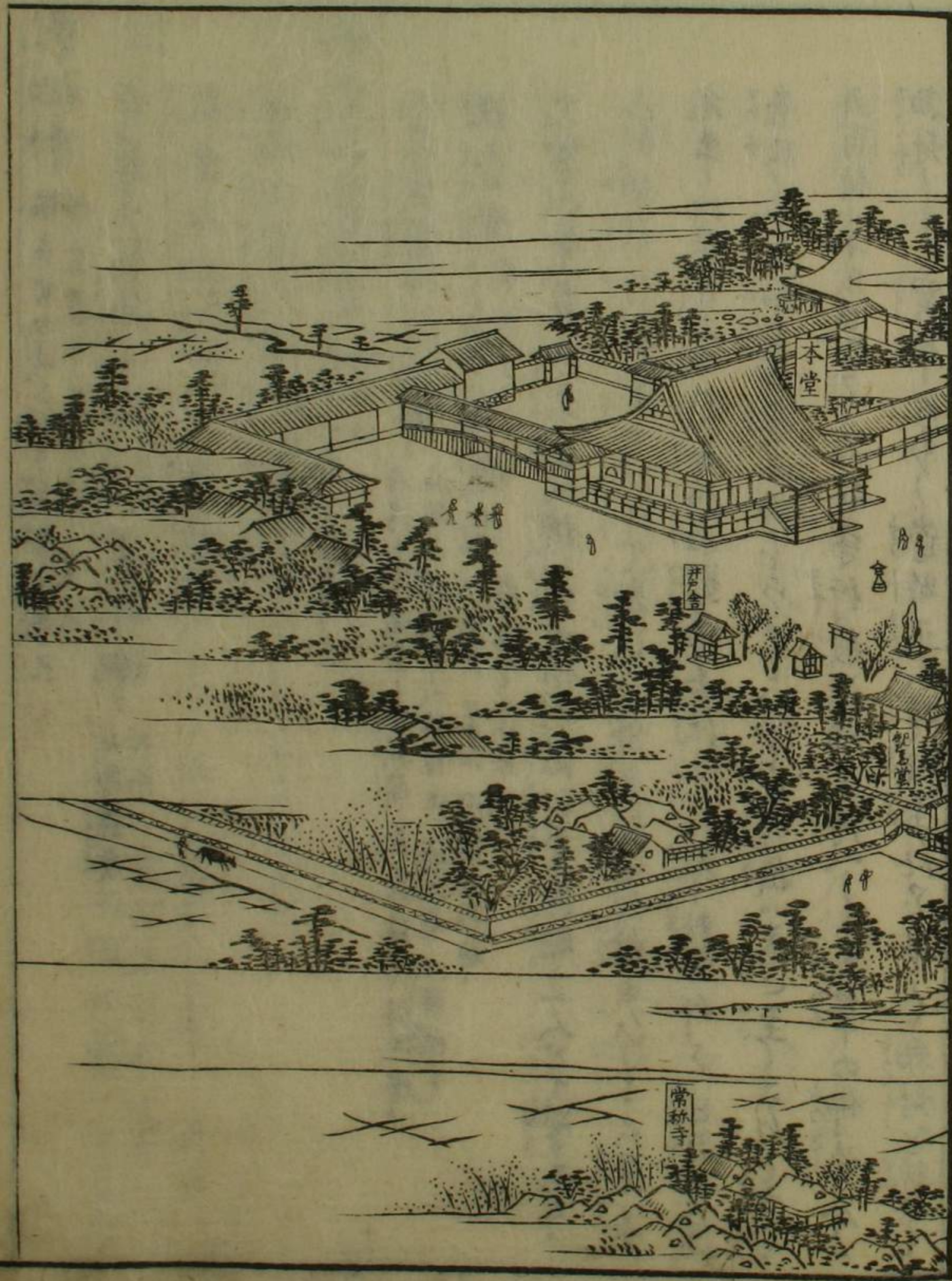
渡唐天神 筆 觀音画 左右白蓮 赤蓮三幅對

墨繪天神 探出筆 萱神像 左右松梅 益信 春齊 讚

社傳 筆 羅山子 哥仙 畫 八幡親王 雲會書 秋書より

菅家文州 十二卷公卿 寶劍 祐武院國豐者郡住

往古銀起 六卷 八幡寶幢坊等 偈文 其外靈交より



菅相寺 佐古宮の後より興隆せり

本尊十一面觀音 長三尺 藥昨佛 仏作遷座

秋葉祠 寺内あり 連新

永井尚庸侯碑 寺前にあり 林道春撰

紫雲山來迎寺 佐古あり之念佛堂

本尊天筆阿弥陀佛 石清水八幡宮より感得 左座像阿弥陀佛 右開山誠阿上人の像を 村上帝の御依り

親音堂 十一面觀音 鎮守 八幡宮星に相模工明神 摘荷と系

史當山本尊の來由伝聞 深江里小法明上人とて聖あり

山別雄德山八幡宮より 龍通念佛宗弘通公禱のいゝる康永

元年六月廿三日 石清水別當善法寺に神勅ありて曰哉此宗

靈驗ありて和光の塵小座よりて至るを空く

五百餘家なるやうに安寺行教法師不傳へて天筆の佛像今

勅封して寶庫にあり 當時正不時機至れり早く勅封を解く

汝より深江の法明法師授けりて靈告ありて是は別當山中

奏聞して同年七月十五日 齋殿を印した法明上人授けり

亦其よりて本尊弘通念佛宗の本尊とて善く海國を

弘通して今の本尊とす

小授けりて縁起も大畧同文あり又大坂の八幡宮より法明上人

和泉國泉南郡よりて天筆の佛像ありて其處六十村月々巡

番し其由致さるる今に至る縁起なり

文祿堤 苗郡の西淀川の堤長サ二里許の川岸に土人云

大蔵神祠 大蔵村ありけり里の生土神とす

茨田池 平池村ありけり池のほとりなるを

茨田故堤 池田村より 古岡 伊加賀小至りて故堤僅小あり

徳川の勝を勝りてのゆゑにけり

徳川に故事ありて



珍子絶間ハ
 茨田堀の贅ホ
 うん中成
 歎き瓢の
 謀とて
 ぬ中の邪
 魔と退け
 今瓜全くも
 帝も歡感
 ありて
 官禄と
 賜るる
 今下
 子代通



阿六十九

供御 天長八年五月内國供御の外赤坂堰を停止せしむ
古川 左馬頭野に結ぶ村等の諸村堰を止む 堰を設け淀川

安田河に接し堰を至り 分ちて二流を形す 堰を設け淀川
郡下ノ辻村小入又又大庭川 守口川馬伏川等みか淀川を
通し農業に便しむ
絶間池 左馬頭村小入今水涸れ

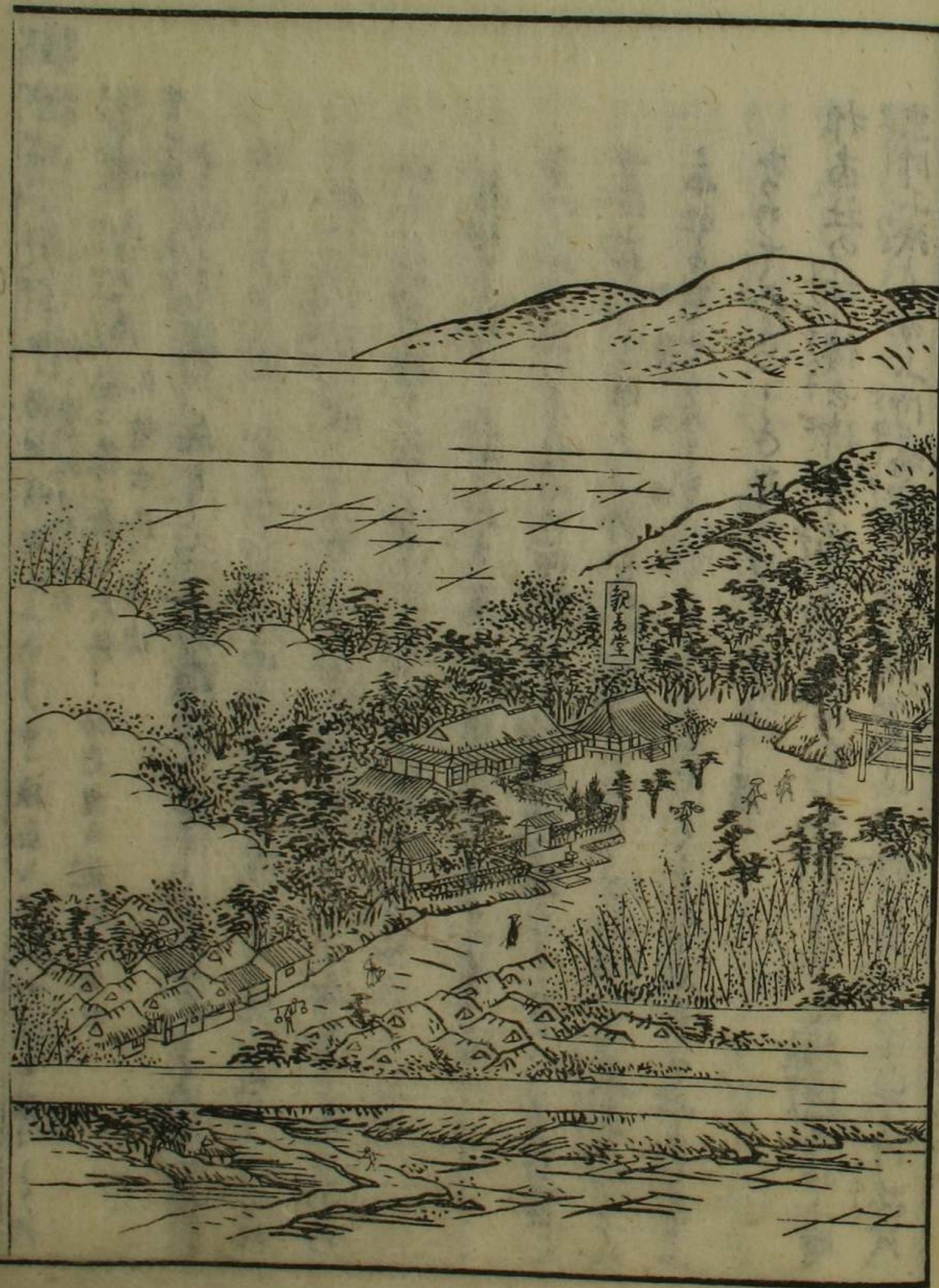
夫本 迄ては絶間の池乃かたむきなる中や成やあつらん
六条院
室有
絶間池 又絶間村舊址に
日本紀云
仁徳天皇十一年茨田堤の使に依り所小築をせしむと云

事多し 天皇これを憂ふ時一夕河伯公夢見ゆ
は神告る云我を祀りて武藏人強頸河内人茨田連珍子の
友人強頸とて流る決口の難か 周茲二人を召しこれ我
令しめし強頸を賛とてこれを水小汲して死に即其地連ふ
成就を祝珍子賛とせしむん 亦二つの金瓶を取て水中小投し

誓て曰河伯實小我を得ん 孰かや流しむべし 其時我流む
身死投る及せん又天邪崇と云ふは孰人か 吾徒不死人幸と
免るなり 中水面小向りて高聲小喚を弄する或飄風忽起て
孰將小沈んとして流る遠く流る遠く流る 衆役者いふ
喜び力と歡とこれを得ん其地成就を祝珍子恙か 一時の人
兩所難く強頸断間珍子断間とし 強頸絶間を今
本後村小ありむり 中云傳り
蛇池 新蛇池 中云傳り
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり

蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり

蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり
蹊池 水原と云ふの池流る 郡村田村小あり



蹠山天満宮 中振村蹠山あり中振出は二村の生土神

系神 菅公須記云 神像長日天許 河内遷云長六尺五分

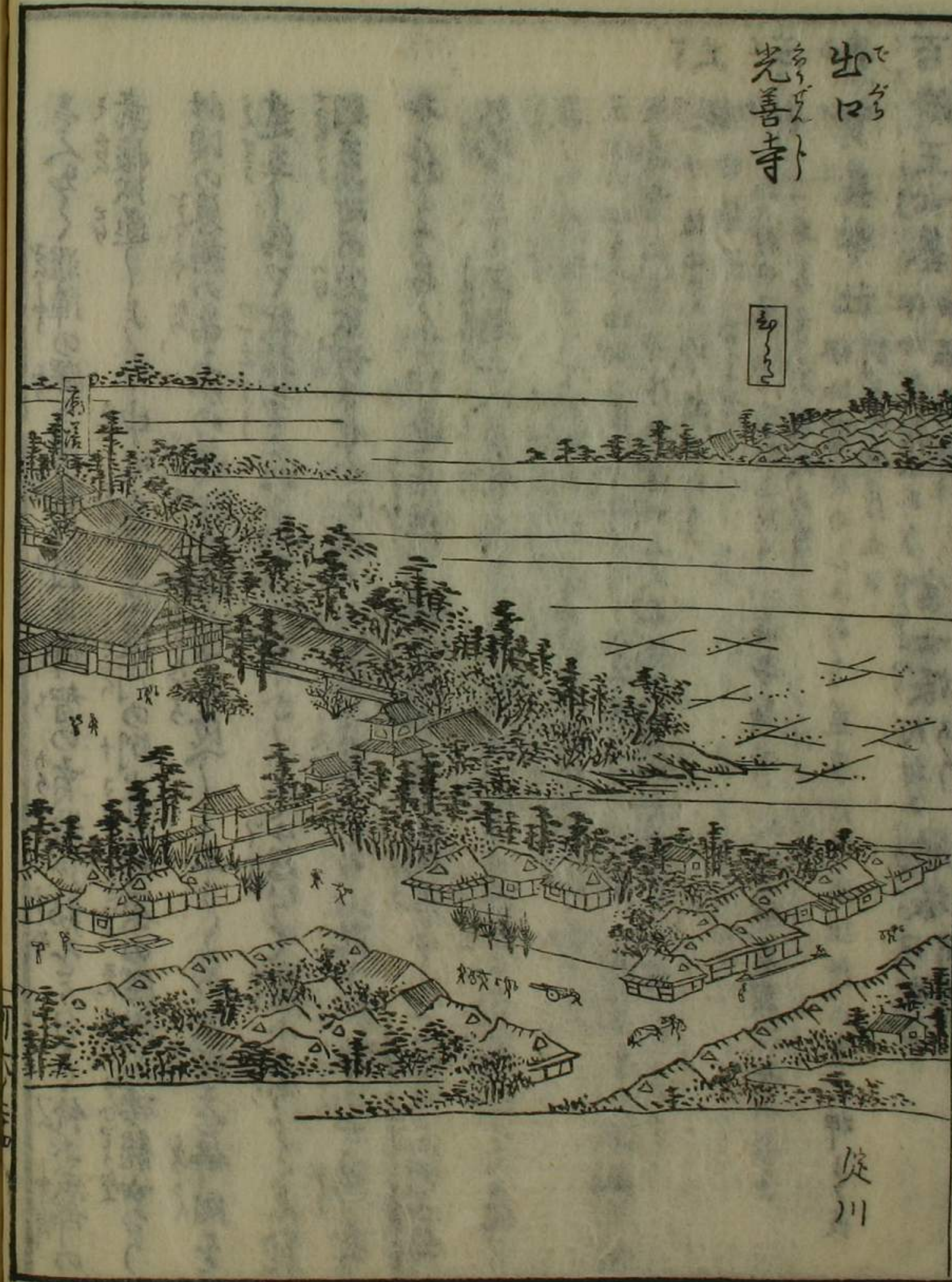
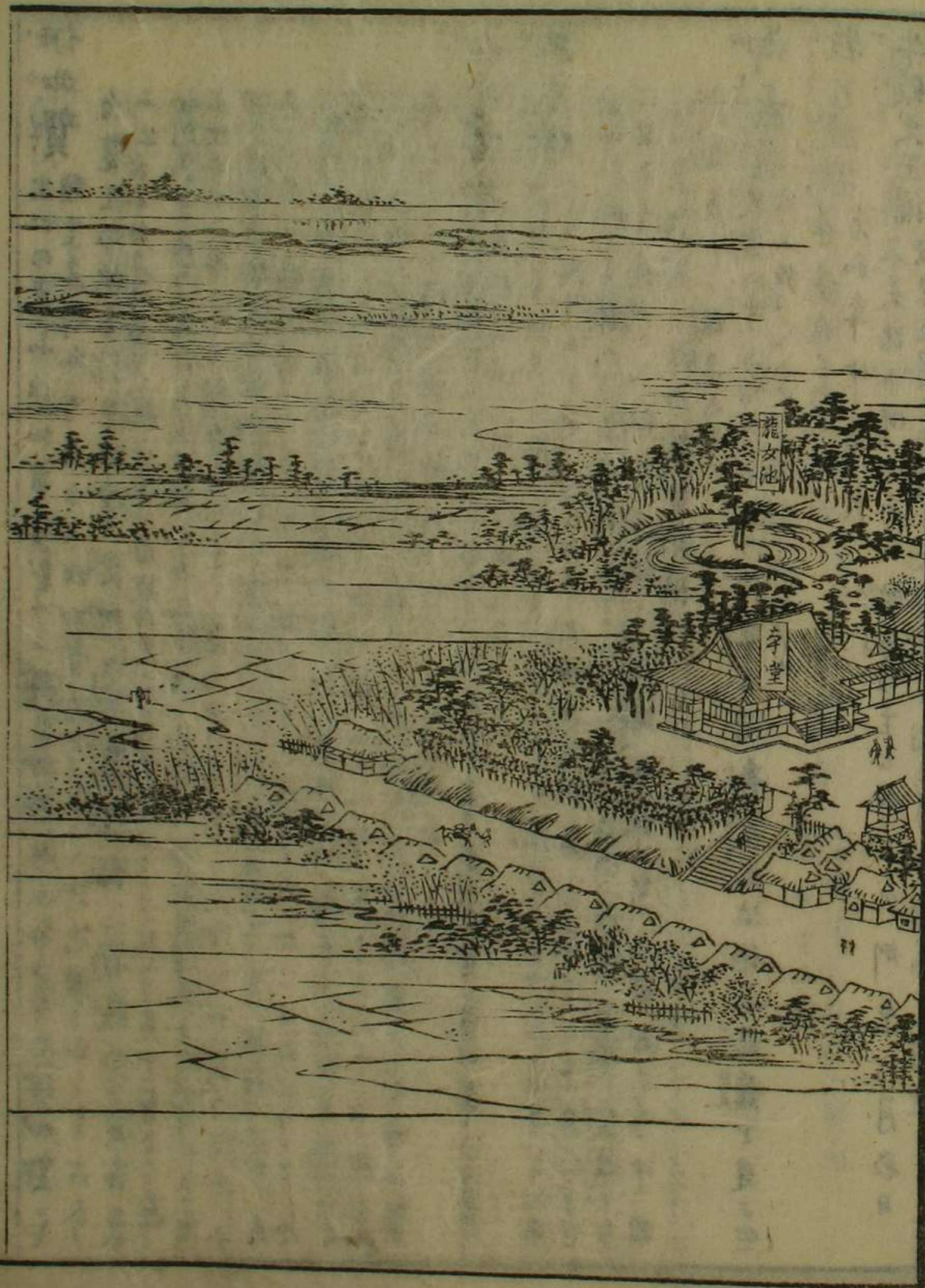
それより淀川尻なりと河内道中とて来ぬれどもねもぬふ
ふも人々をねりぬる事やあつてとあつて
ふも人々をねりぬる事やあつてとあつて

ふも人々をねりぬる事やあつてとあつて
ふも人々をねりぬる事やあつてとあつて
ふも人々をねりぬる事やあつてとあつて

折出社の神傳云神像を昌泰四年菅公決つて請遷志保小時
京師小張より河内息女より菅公須記云河内父の別名は蹠山といひて神跡哉

龍光寺 蹠山天満宮社頭あり

暮いふれぬは祈ふ至り西の方と眺めいふ意慕れぬ蹠山一ふふ
半止ど人々は神像一々感得てあふ刻とてと蹠山といふ
文選ふる蹠山と訓ト唐詩の註ふ失足貌あるを足どり又なり蹠も
訓む丞相既ふ配あふく蹠トあり后上天神通自在あり一忽然也
一とけふふ新向ありて庭上の梅樹なるのく自る像と一若ふ彫刻
あふいけ地ふこめ神息女の帝く詔を慰免形見せしめ其より諸人
奇特のふいをねり尊嚴清くは遠く近郷二十四村生土神や出ふ
毎年系式あるある年神祭の座席以て村々別あふ小成て小祠
營て例ふ勢半ふりぬけ本社小張より者古河中振出にのあ村小張
神像を山山蹴動したまふが奇蹟あねるふ蹠山一々慶長の大
ふも社檀を焼きぬれども神像恙か一依之諸人蹠山天満宮故社と
や作ふとそりぬれ



出口
光善寺

印

從川

伊加賀 出の東山伊加賀村をりし驛の柳枝抄小あつるも伊加賀く
類宗名所和奇集母と伊加賀村の河内國小出に古今
兼覽王の歌を記しし事一契仲の勝地吐懐編不討藏あり其言兼
小古今物名兼覽王 堀小あつる波の東にまゐるいづれなるを見えさる
河内國中をりしうけりし日記小石小まゐりし舟にて居るもいづれ
山吹のゆたふとつ所を見えさる蘆の中よりこれゆきしり古今小
つれあひの次小保經覽せし夢のうきをよめる奇成けりねこれ
むも小近江あるべし 膳少納言あをけりさるかきさるいづれ
とより和名抄小河内玉藏田郡伊香賀村あきとこれり舞小
寄とはいづれ又保氏小常陸の徳重といひけりあれをそけり
只同名なり定く追記とる人 中又河内國中をりし伊加賀
村をりし河内國田郡小出せりこれも遷りし人

山崎院 跡 高郡の田二町を能入る
牧方驛 出づる申傳く大坂内村名を生ずるを退ひし
二里なり其中小柳葉上橋下橋 諸禁野等の牧村あり中頃
より系祖道と所傳 養舎 中頃
御桑屋 牧方の中より天王の頃豊右衛門秀吉公は地小織館と建させ
牧方城 中多氏とれ小橋
牛頭天王祠 三丈地下あり牧方の生主神といふ例 永六月初日
秋永九月四日傳小徳天皇祠あり今猶舊と移れ

長松山萬年寺 牧方天王の社頭小あり
真言宗

本尊十一面觀音 長八寸 藥師堂 藥師佛と弘法大師坐
長き寸八寸

行者堂 親善堂の傍小あり
役行者孤安ん

此地をむり 惟喬親王諸院小あり 仁徳天皇 田獵 小い
放し緒さるく 高山大樹の松小止り巢と營て 離孤生を親王
飲膳ありし時々行啓 小い 狩 小い 長松山
舞 其 驚 小い 山小埋葬 小い 寺 塚 小い 又 藏 谷
少い 入 履 中 天皇の官庫の古蹟 小い 本尊 大慈の像 小い
推古帝の時時高麗の僧惠澄 本朝へ渡海を其折の 龍 鳳
兼 弘 霞 さん 小い これを 救世 菩薩 小い 橋 小い 小い 忽 移 小い
安泰 小い 看 岩 小い 即 大慈の像 小い 先 佛 圖 小い 建 小い
小い 山 小い 風 色 小い 彫 小い 中 華 小い 林 岩 小い 小い 時 小い 白
髪 小い 老 翁 小い 忽 然 小い 現 小い 白 檀 小い 小い 一 至 小い 大 慈 小い

其の害を他へて惠澤を興くわきと是三竺の法を日神へて飛去り
其の負親二年の春醍醐の聖寶寺に作らるるを惣々たか伽藍
建營し且く萬年通寶の銅法を造らるる則てこれより
萬年寺と號し密法の特全と形し又負親十四年小天下度
流しに國民多く其時清和帝牛頭天王の神靈を賜
て彼の平金紙はふく新しむ今此天王社これなり其より
弘法大師高野山法華の時けふあり某時佛が安しと國
平安紙を授けり又厥后一條院寺長保二年小諫議大支
光の子出家し寂照法座を號し惠心僧都の上より惠心
台宗の同目二十七條を作して唐土の智禮法座小使明
寂照小持し免渡唐なりと明の法小至り南湖の智禮
て同論し其後此地小於く重病を受く大苦惱を此時
大悲小平愈紙新し其救世觀音松上小まき多し雲
授けり即これ紙服され忽ち平愈して帰朝を其靈方當

寺小傳來しと諸人小施し今の混元丹これなり又長松

寺前にありと今時まじく茶々やして霜雪小冒され

む千葉不朽の色と現るる亦靈場の奇物ととられり

東本願寺法堂自願生場なり

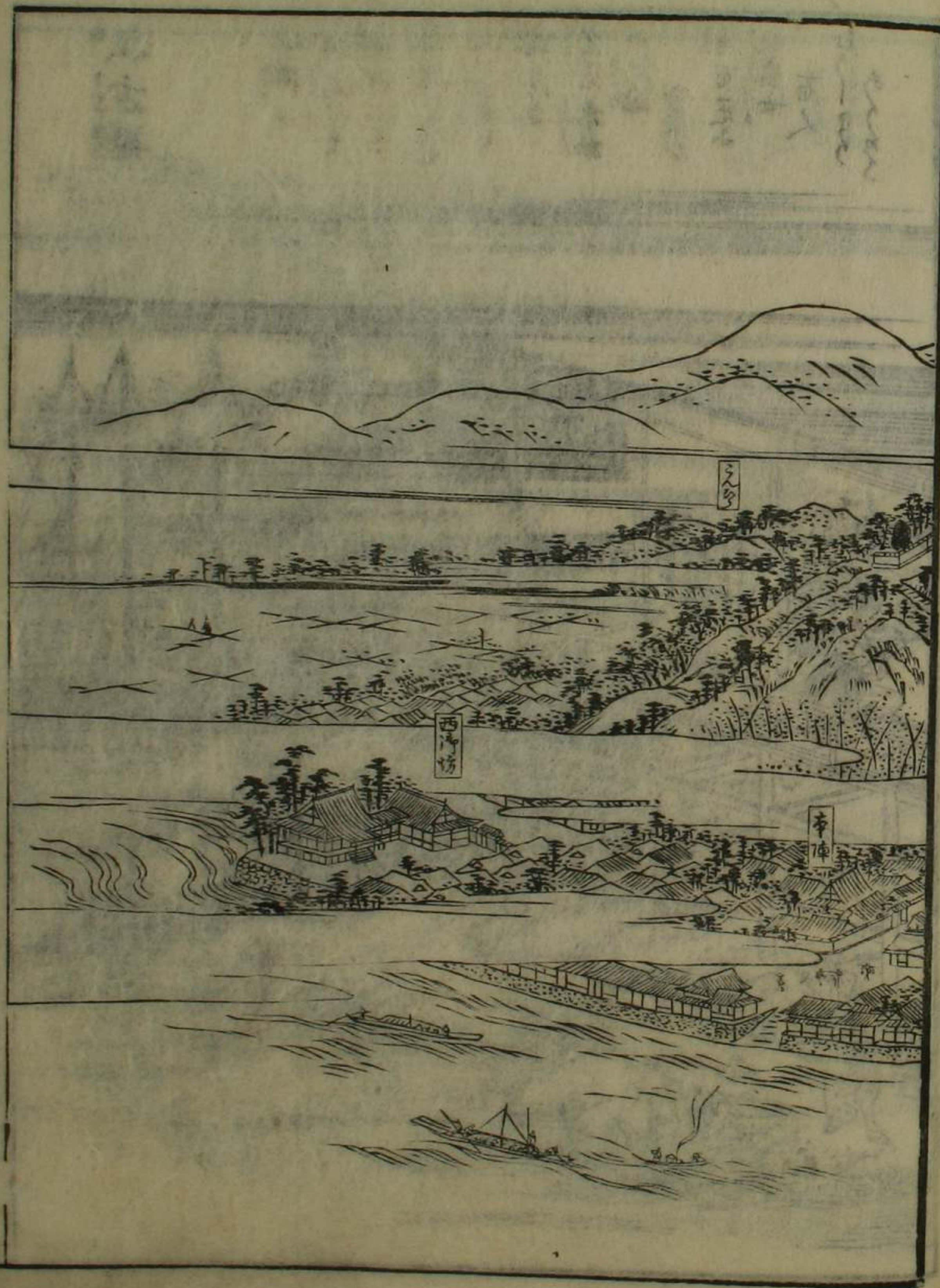
本尊阿彌陀佛 長三尺五寸許

西本願寺法堂 寂如上人の附自願生場なり

本尊阿彌陀佛 安阿彌の

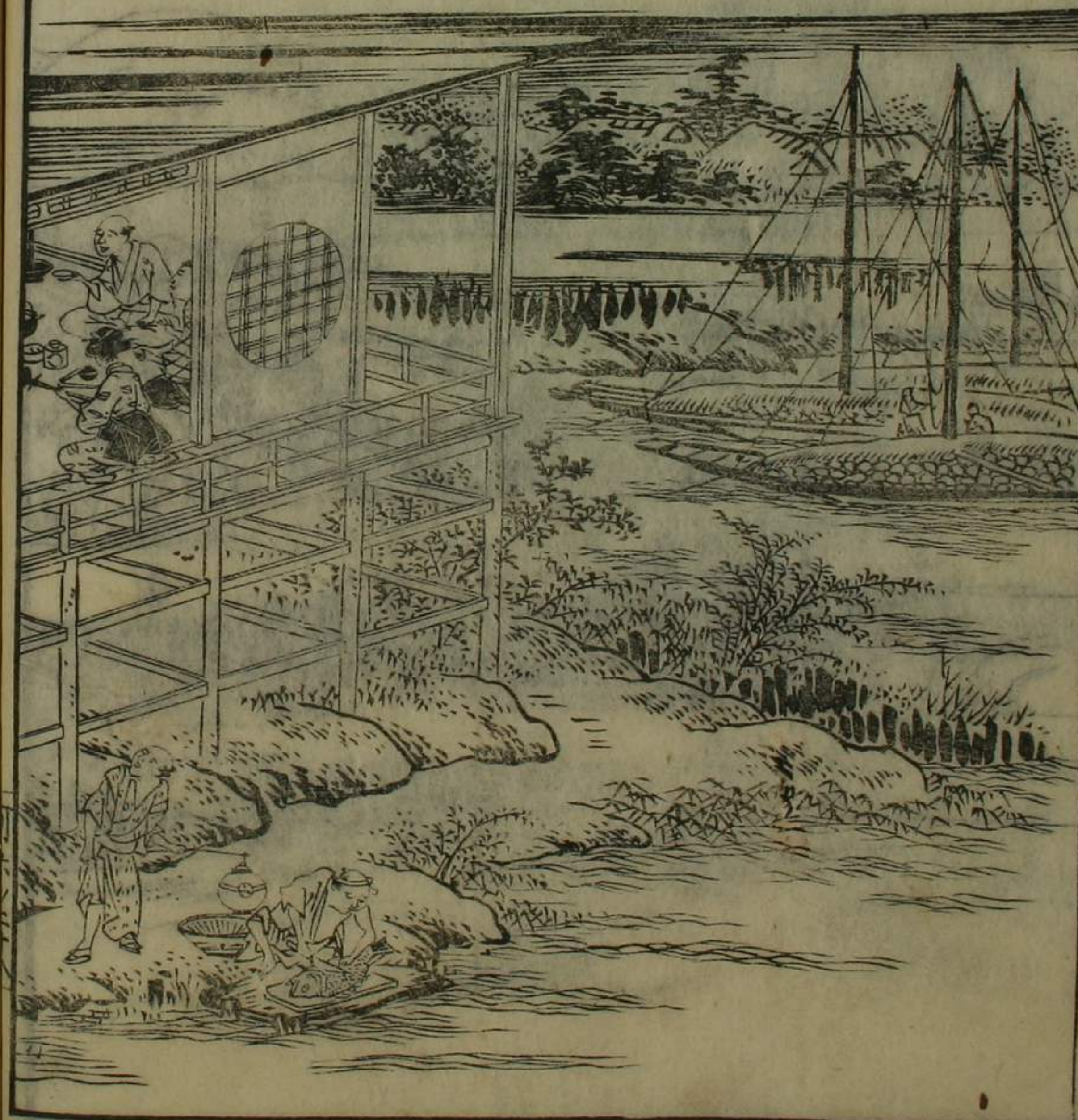
鷹塚山 牧方の東にあり孤峯獨秀ふり一河橋の山

藏ヶ谷 造り寶器及び石巻の書藉と蔵りゆり古蹟ととれり

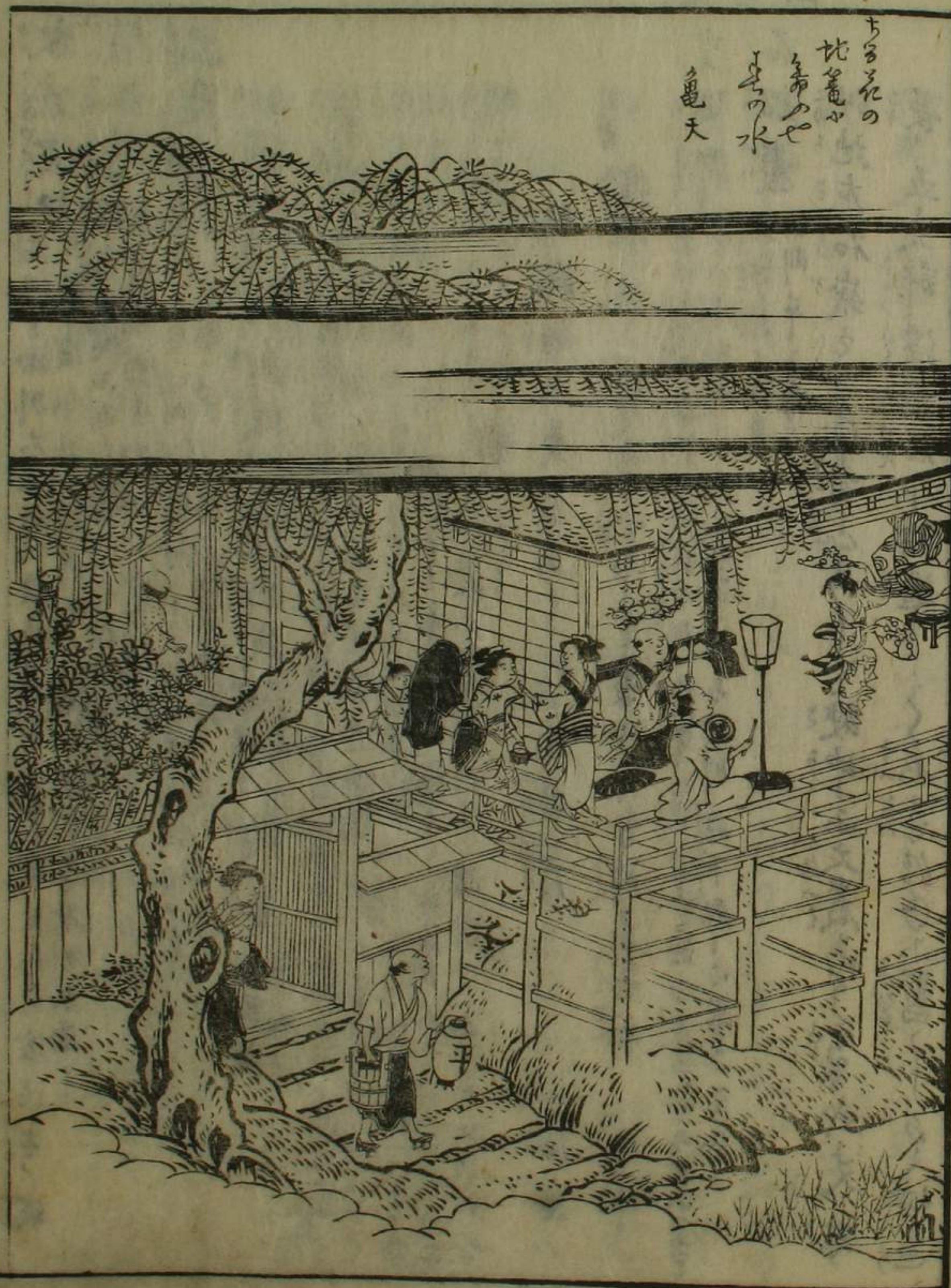


牧方驛

は驛と
年久し
系略
沿道へ通船
又、兩國の
諸侯方
更、東、南、北
の驛路
なり
馬百疋ふ
飯盛女
百人
むろり
あつら



ちる花の
地蔵や
寺のや
よの水
亀天



石交

名監牧

烟丸

不皆殘廢也

挑

梅園

物

斑
昨

船野の

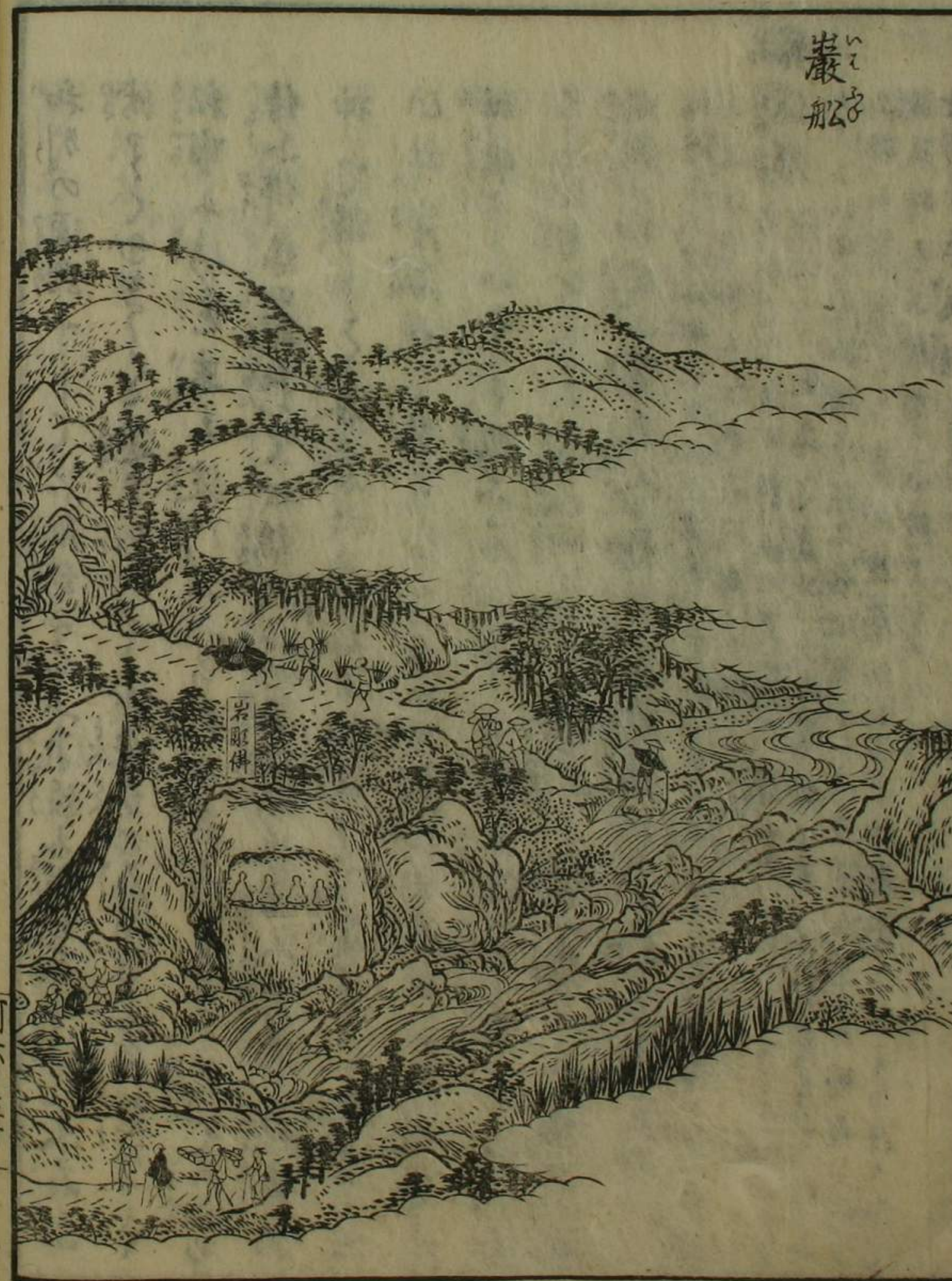
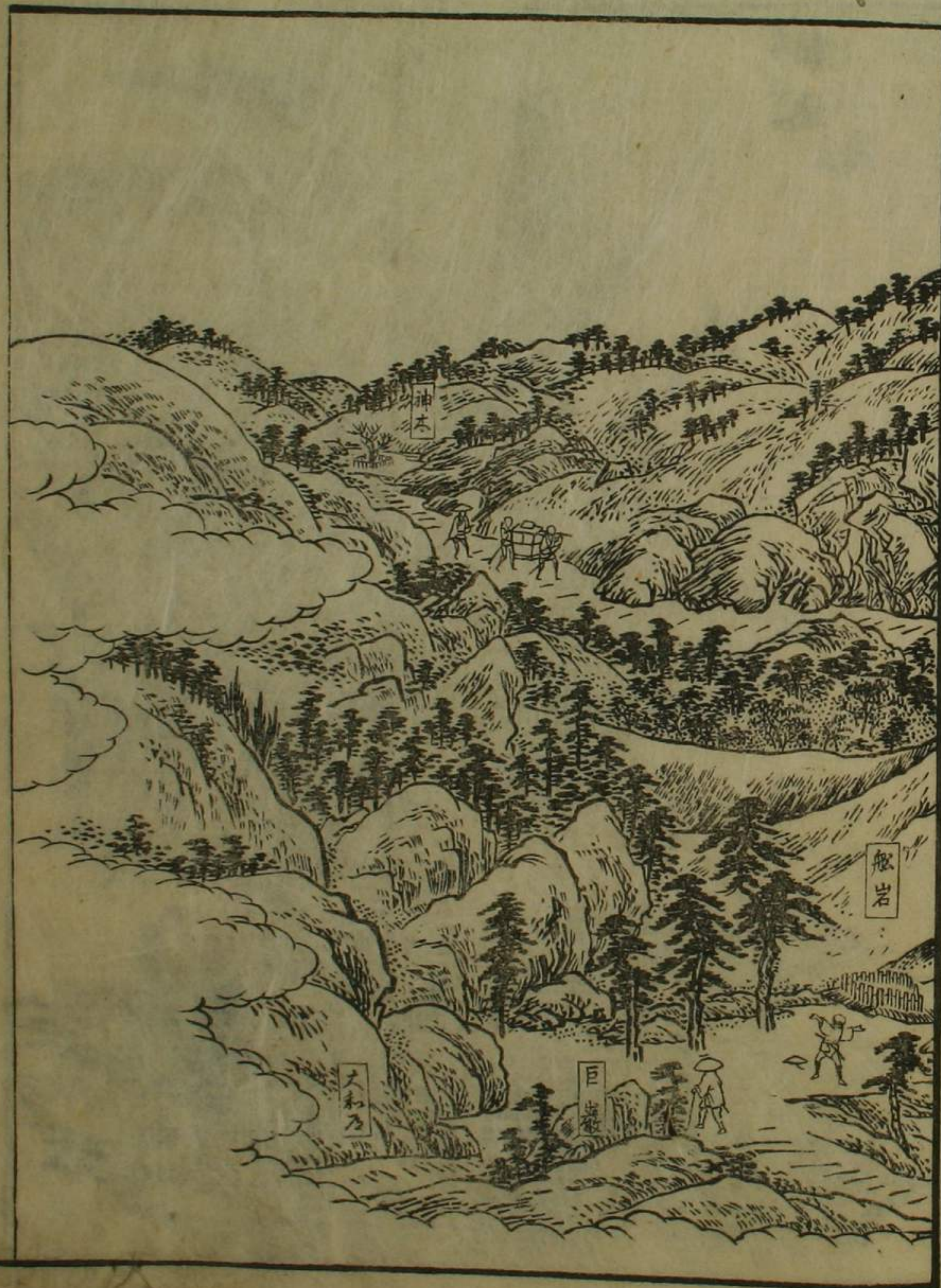
船野の

此 長みづ

河

船あは

と雨ふあ返ふ河相る弓 神は 神 傳 和 海 和



鮎返
滝



妙見山

星田村の東にあり

妙見神祠

妙見山のふもとにあり

妙見石

妙見山のふもとにあり

妙見家

妙見山のふもとにあり

住吉神祠

星田村の中ふもとにあり

星田寺

長武大八寸又十一面観音

八幡宮

石清水村の東にあり

旗立松

八幡宮の社前の老松

星田尊蹟

河内志田星田村莊甲の宅

星石

三ヶ所ふあり一は妙見山

崇金女故趾

星田村の東にあり

星田

星田村の東にあり

星田

星田村の東にあり

星田
妙見



明光寺

佐上村小あり天照山と号し大念佛宗
佐上村小あり天照山と号し大念佛宗

本尊阿弥陀佛

又一日の他長き尺八寸又境内小十二坪の石塔あり
又一日の他長き尺八寸又境内小十二坪の石塔あり

石寶殿

尚あり又近年は側あり金剛の壺大サを尺八寸の物あり
尚あり又近年は側あり金剛の壺大サを尺八寸の物あり

八十家

日村小あり由縁不詳
日村小あり由縁不詳

本尊掛松

石清水八幡宮あり又天照山と号し大念佛宗
石清水八幡宮あり又天照山と号し大念佛宗

普見山

獅子窟寺
獅子窟寺

新後撰

静仁法親王掛子の岩屋小龍王伝の折ふ
静仁法親王掛子の岩屋小龍王伝の折ふ

本尊薬師佛

行基の他座像長三尺許又額頭盧そ成寺堂小
行基の他座像長三尺許又額頭盧そ成寺堂小

懸の時

はる像と懸返の像ふさうきふ
はる像と懸返の像ふさうきふ

けりて

ぬ瓜新ふ半一教日なり
ぬ瓜新ふ半一教日なり

獅子窟寺



獅子窟寺
坂路

下の坂村より
本堂まで
八町の坂あり



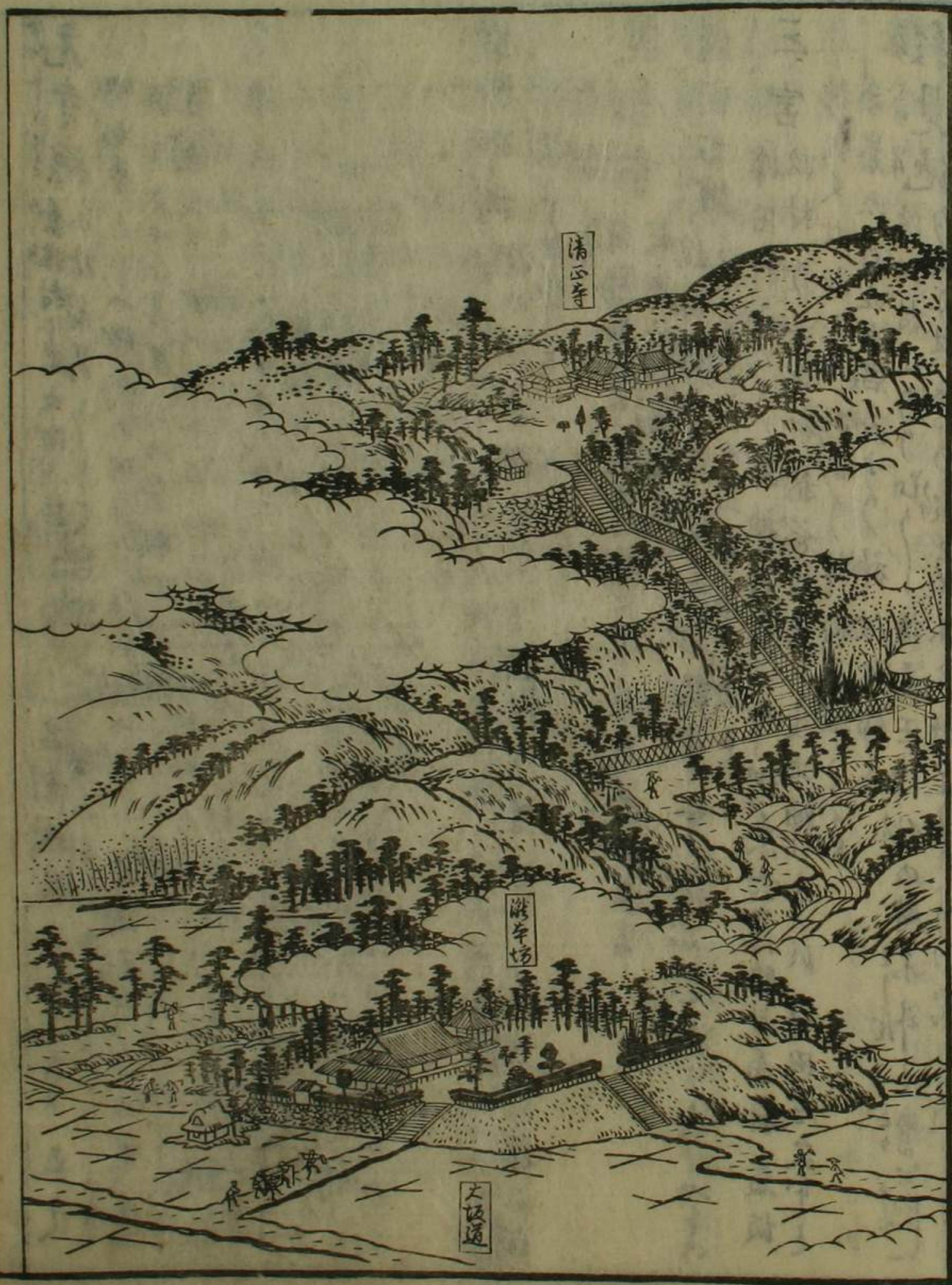
獅子窟 本堂の北あり中臺金剛大般若窟や移し
亀山院陵 本堂より坂路を所半許北あり親王廟陵記小
其親恩の爲に小塔を築きその形を龜山院とす
金剛寺の三所小藏心金剛寺といふ
紀州高野山金剛峯寺なり
皇后墓 帝陵の側あり龜山寺北皇妃形を人々
鎮守 八幡宮あり金毘羅持現
龍石 中堂の奥三町あり辨天石祠の裡
戒根泉 窟の中あり天福石一名黒石坂路の
玲瓏石 一名親石奥院の無底洞窟の北の
牛卧石 二王門の趾清涼壇あり
虎嘯石 方丈の奥寶篋印塔
當山の記曰寺の主山蒼翠盤礴ふく其驛獅子
地上小蹠る小背より洞窟を深遠にして後院のや公開く

吼聲——大震ふ小勢髣々佛殿を山腹ふとく天河と隔て東
の方系所を遙ふ——西の方振城を瞰む山の方系画牒が開く
がめ——奇巖怪石山巔小聳へて深壑小構ふ茶松脩竹鬱密や
——森沈たり佛聖の宅さる所ふあずんを豈この絶勝あらんや
其来由公考するに昔在役小角金剛山小居しめひ——とん
遙ふ山頭小五彩の雲氣を公見く是——重靈區之也遂ふ
錫と飛してあふ小房を榛莽に披れ巖址を夷げ芽と縛ぐ
一日窟中に宴坐して首公矯く親見さるふ是地處して淨瑠
璃世界とある爾後山を指て藥師如来の淨土とん
聖武帝此淨土小建んが佛正行基勅形公義く梵刹を創し
宸且の五基小准して四隅の峰巒を四基と標し——山と名く
中基とん復令——金剛般若窟といふ窟前小廣堂を
間次構ふ先覺畫棟巖密を照耀と又經藏淨樓食堂僧寮

暨び二層の塔婆鎮守れ神祠神財天祠等次建く堂の左右小列
又一堂あり中ふ聖德王役小角行基の三像と安ん外ふ金剛のつと
設々山場四至の結界小名寶篋印塔公造し——山嶺とん山
間小觀者巖德雲石大黒石掛後石鏡石龍窟等の靈蹟あり其
僧房都く十二院其後一百有餘基を歴く天長中弘法大師
け山に窩し——壇公立く佛眼明妃の法と修ん三昧成就の時七曜
降下——山林に照耀と又表して獅子寶冠佛母尊乃居所ふ
乃名神祠とん天河の左右小散立け抑神龜天平より文應
弘長小至く既ふ五百有餘基と歴ふ其間茶月綿邈りて棟宇
傾圮を適 龜山上皇玉體不豫なりこれ公熊野權現小構る権現
夢小告く曰聖躬の安康公保んとんば則獅子窟の藥師佛小祈
登——於是 上皇車駕とめぐして除幸しぬ至誠祈禱——たふ
いさで幾時た——て皇疾頓瘳を獻情たふ小歡とん即有司ふ

令じて重く殿廢を興に殿堂門廡煥然として一新に山下二里許小
行宮の故基あり今呼ぶ院田里親善寺と云ふ又山右崙崖の下に
古石塔婆二基あり荒草涼煙の中に屹立其一如皇陵其一如
右后墓之殿后三百餘の星霜孤厯る文極慶長の騷擾小中て兵の
為に毀れ金碧の區々として瓦礫の場やする寺存も亦あらず
官府小邸に呼ぶ桑田碧海須臾不改其地や半を我山の河門
月潭は寺記と識して尚山に藏む
親善寺 真言宗 秘市村小あり龜王山と號し一名千手寺
本尊如意輪觀音 行基の祖といふ大慶あり諸堂魏々として
龜山上皇の神牌 本堂小安れ此地の舊院田といふ椰子家の
御祀小あり今呼ぶ龜山上皇然野村親の靈告ふといふ善見山へ
の幸はくくくの時以所行宮といふ後小大慈の像が安坐
くく千手寺と号し故小院田の号あり後二條院の寺号嘉元
二年の嘉勅ふといふ本堂再興一坊舎ありくくく
寺領も桑田一あり龜王山と号し大念佛宗
須弥寺 佐々木近寺に属す

本尊阿彌陀佛 唐像長 觀音堂 千手大慈安んず時田の他長武天七寸
後世今の宗名 小ありくくく
嬰兒山 寺村の東にあり名區之山中小乳母谷爾石あり孝小慈王
夫本 祠あり歳旱の時狐禱るに驗あり故小慈王といふ
秀示川 水源傳示村の山中より流く寺村前子池を
水室古蹟 傳示村松村等延寺村の三邑あり今呼ぶくくく天長
これ狐用也といふ今傳示村小
私部古城 秘邪村天正年中廢す
光通寺 秘邪村小あり長壽山と号し
本尊如意輪觀音 唐像長五寸用基別尊和尚
南朝 後村上院の勅願所あり
長寶寺 郡門村 本尊十一面觀音 長武尺
梅塚 郡門村 本尊 日村小あり
中塚 郡門村 満家 日村小あり 平家 日村小あり 共小由縁不詳



雑魚
取

暖氣魚
苗代管人
とく小池
舟池を
いろくの鱗
近まらる里の
童これと
さでいうれ
な



持出るる
長采衣
妻の眞と
んえん

我事や
雛の
根芽
文州



[illegible]

新稿撰
霰めりききみりすけりこの橋中系柏

後人
方政大居

續十
あつたにせしものゝまゝあつたにせしものゝ

文中
為實

新千
物い
か
の
う
か
を
う
く
難
の
み
み
得
て
を
は
む

郁芳門院
安藝

かうそたうこのくまはく雪乃中に隔るさ遠る心の燭れ月

忠房親王

新鑑古
若海江可也所待子やがて多市を所置此の如く日か

高重

鳥立原とたちばな 交野まじのの仲なみあり土人
登羅太とらたお原はらといふ

新古今
源得をゆてこれあはるるうかこの世あふまへに

花開白
香波六居

百重原ひゃくえがは
交聖原の一名形とす。威力云々
私市村乃ちなり。

夫本
交聖^{うさめ}を居^ゐる^ゝへ^へ系^{けい}と^とけ^けの^のま^まも^も意^いを^をや^やあ^あは^は花^{はな}の^の都^と旅^{りょ}

時長明

車クルマ塚ツカ禁キン聖セイ村ムラ小コあり
 糸イト屋ヤ為ナリ古コ蹟トキ方カタりリとトきキ惟タカ喬キョウ親シン王ワウ沛ハイ車クルマ弘コウろロ小コ

和田寺
禁聖村より醫王山佛陀院と号し
真言宗

本尊藥師佛やくしふつ 聖德太子作長三尺六寸婦人妊身の時猶れを必安産の靈應あり照土不動毘沙門天弘法之師の化

寺説云
古寺園基弘法之所なりて本尊を初撰列四天王寺小

河六十二

在いま廿一紙大附こ遷うつ一紙こ其後貞觀じやんくわん年中
文德ぶんとく天皇てんかう茅ち下

皇子ミコ 清和天皇ミチヒロ 惟喬親王ミチタカ 小遊獵ユウリョク の時 三足の雄ミヤド 波瀾ハナ

院いん小こ飛と入いッックク純じゆん也也即すなはちこれこれ孤ひとり塚つか小こ築きずクク小こ祠ほくらをを建たちたるる今いま若わか鎮ちん守しゅ

これあり其後こうご康永の頃ころ慶應けいおうによりて擯へん黨とう和田わだ新義しんぎ意源いげん

秀再興以因茲和田寺也改む什寶小之昨真蹟の兩界曼荼羅

あり 寺前に 沛 狩 櫓 あり 初^{はつ}の 樹^きを 枯^こ朽^くして 挫^く絶^{ぜつ}を 爲^なす 我^{われ} 國^{くに}へ

百濟王靈社
中宮村小ありは所の生土神とて
例祭九月朔日とてふむし

傳云延曆二年の冬桓武天皇交冊不遊捕一の百濟王等

宮爵孤賜又西宮記云百濟王孤交野の孫授と其

多くあり又玄皇后の叔父橘朝臣淳野の隠居の
所なり天長六年十二月逝けり

年八十類聚國史不足なり
中宮村あり
中宮之系家
日村あり
由縁

口宮派廣サ六百畝
信傳云むろ
長橋橋乃に可

未^ま古^こ子^こ吏^しあり 多^{おほ}言^ご公^{こう}罪^{つみ}せしめ^しね^く長^{なが}極^{ごく}の橋^{はし}柱^{はしら}小^こ余^よとて^てん
 河^か伯^{はく}の贅^{えい}と^とぬ^ぬる^るこれ^{これ}を^を長^{なが}極^{ごく}の人^{ひと}を^をう^うら^らし^しめ^め其^{その}娘^{むすめ}稍^{しやう}成^{せい}長^{ちやう}く

指列よりけ里の長者の象ふ婦人其母戒一先て汝々父

けふのふろくおとす一掃一掃
 中 暑 酒飯のむねはくやまとお
 ふりねえとわいすかりをぬくこのふたされ家そのおんたん様
 ちよふおり一掃一掃そのふたをちよふおりおとく枝をゆりく
 かさ一掃一掃てかきぬくも皆おとすふたをぬくおとす人のふた
 古今 世の中ふたの様のかうよせはふたをぬくおとすのふたをぬく
 業 平

新渡於
續渡於

これこそ昔心く櫻めてはなまうれそふかたうに所く内へ
かこけする涙の梅いくまう絶てくといひく物ふけくくさ

法市定廣

渚杜

海邊院の林を

むつ時ぬいく入滯くくは海老の渚の杜乃を紫くぬく并

夜盤
肉大居

渚園

新於

うらほ草小渚の丘乃松風散雲おも波の立かゝりて

信明朝臣

河六十四

新勅古

つる海のほとけ花さく死すのききやうなる沖津さく波

源信明朝臣

丈夫

籍乃ある所のとくあるやねふと信かくとえゆる所のた

素是法飾

交

野の
神
社

鐵鞭延喜式出 濃の心坂村ふあり 近邑ハケ村の生土神あり
 例 享九月六日 式より神社と記す

素是法飾

祭神牛

頭天王 今土人ノ宮ニ梅ノ本植テ帝親之也
幸地ニ小安ル又四天王地茲ニ爲瓜安ル

松原記所

録あり

一宮祠碑

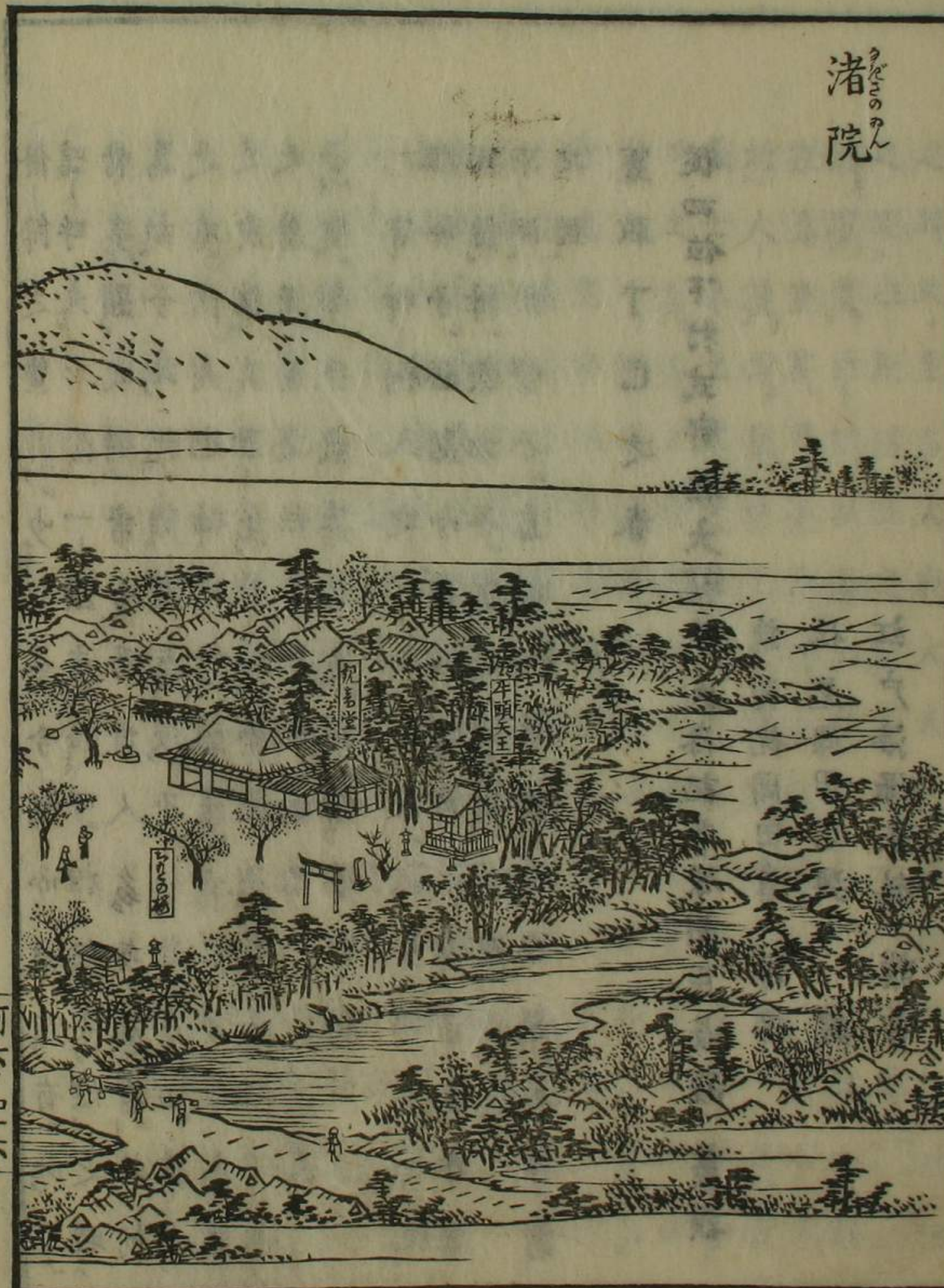
隱也者顯之本而所以未必不可相無者也
 丑之陋顯一盛一衰人之居世一隱一顯
 豈啻人丑耳哉神之至一隱亦猶不得無興
 廢矣詩曰升之格思不_レ可_レ度思_レ矧_レ可_レ射思
 神之隱_ル得_レ人纔顯者如_レ斯也吾河內州一
 宮神祠奉_レ祀進_一雄_一封_一云蓋延_一喜_一式_一所_レ謂
 交野神杜是也誓_ル之古昔每歲仲春
 天子必召_一本_一祠_一祝_一於_一京_一師_一使_一卿_一大_一夫_一薦
 鉞輶各一_一口_一于_一封_一以_一行_一析_一年_一祭_一於_一祠_一下_一焉
 往昔之顯如_レ斯矣及其_一羅_一災_一而_一庫_一堂_一門_一牆_一
 悉消滅_ル於_一灰_一沙_一無_レ有_一其_一遺_一漏_一焉_一所_レ餘_一者_一唯_一
 基礎而已其隱也久矣至_一天_一正_一之際_一而_一顯

之時又至矣夫一且相湊曰祠
之固宜置巨社以華之東北隅
在焉豈其可再修乎哉民雲集
於此是乎大
長七十年土本良工始大匠其
庶西室置相國
公之千斛以壯其祠以嘗尊崇
之食焉豈盛之田如降乎哉案
旁隣九邨之舊社歷年之久不
廣壤荒蕪焉其祠又隱也子本
寬政八年春本祠祝隱也子本
邨之農民興補廢壞尊之顯亦
復舊社未幾及夫相昔之祠有
也先是附庸大往相之祠有之
今之東北則可得也鎮之何人
昔之東人尊而再修之今之所
是外浪華者而修之今之所
可不在斯矣又成唯以九邨之
意

修飾之費非少故今且而後始
鳴呼夫一隱一顯未必不可相
常多顯之時常少乃世人之多
焉故今此記諸其舊使不者無
之有民戴其恥也神之靈能祭
之薦田圃其供焉不降福乎哉
不降福乎哉其供焉不降福乎
一宮神祠人之所知名與松喬
隱而不顯顯而不益益始龍維
雨能降穀水不竭不竭既鎮浪
京師經營不怠補修必時記以
之貽
寬政丁巳之春
從四位下行式部權大輔兼大內記菅原朝臣長親篆額

前祠祝岡田臯拜撰
伏見岡田宗興建
江戸海保皋鶴謹書

渚院 さざのわん



弘安百首

かゝ冊か所

渚の橋いく

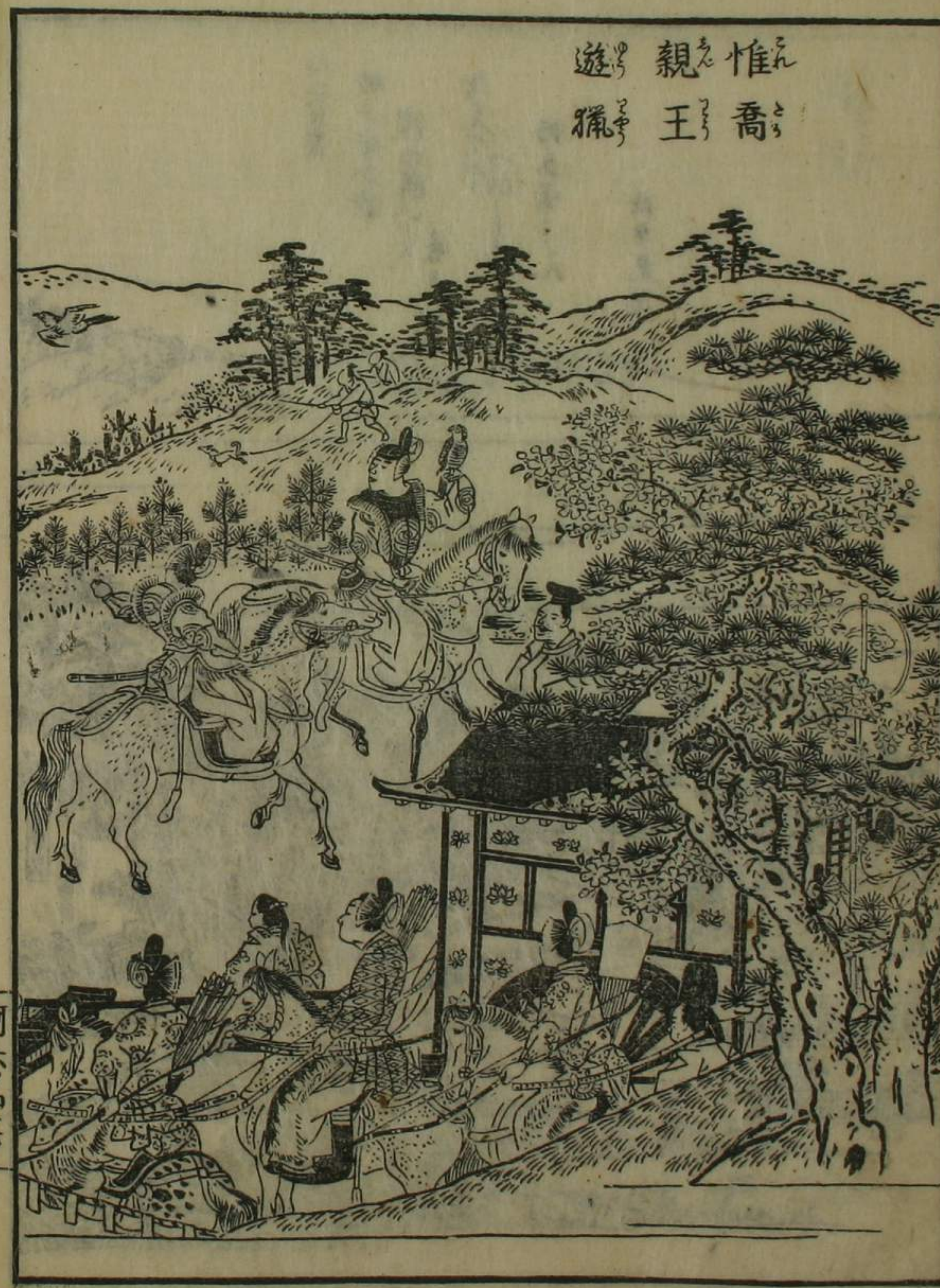
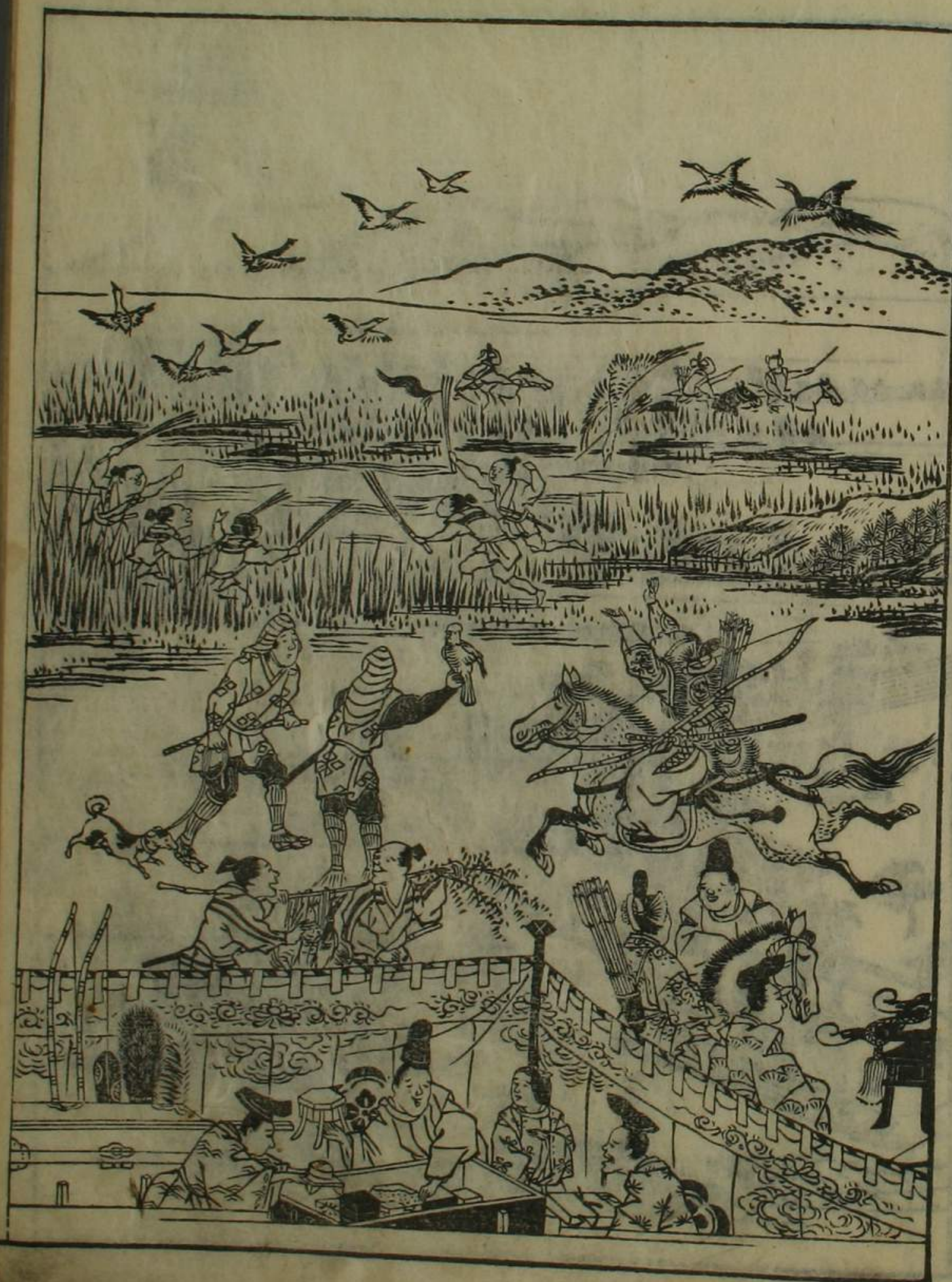
たえてや

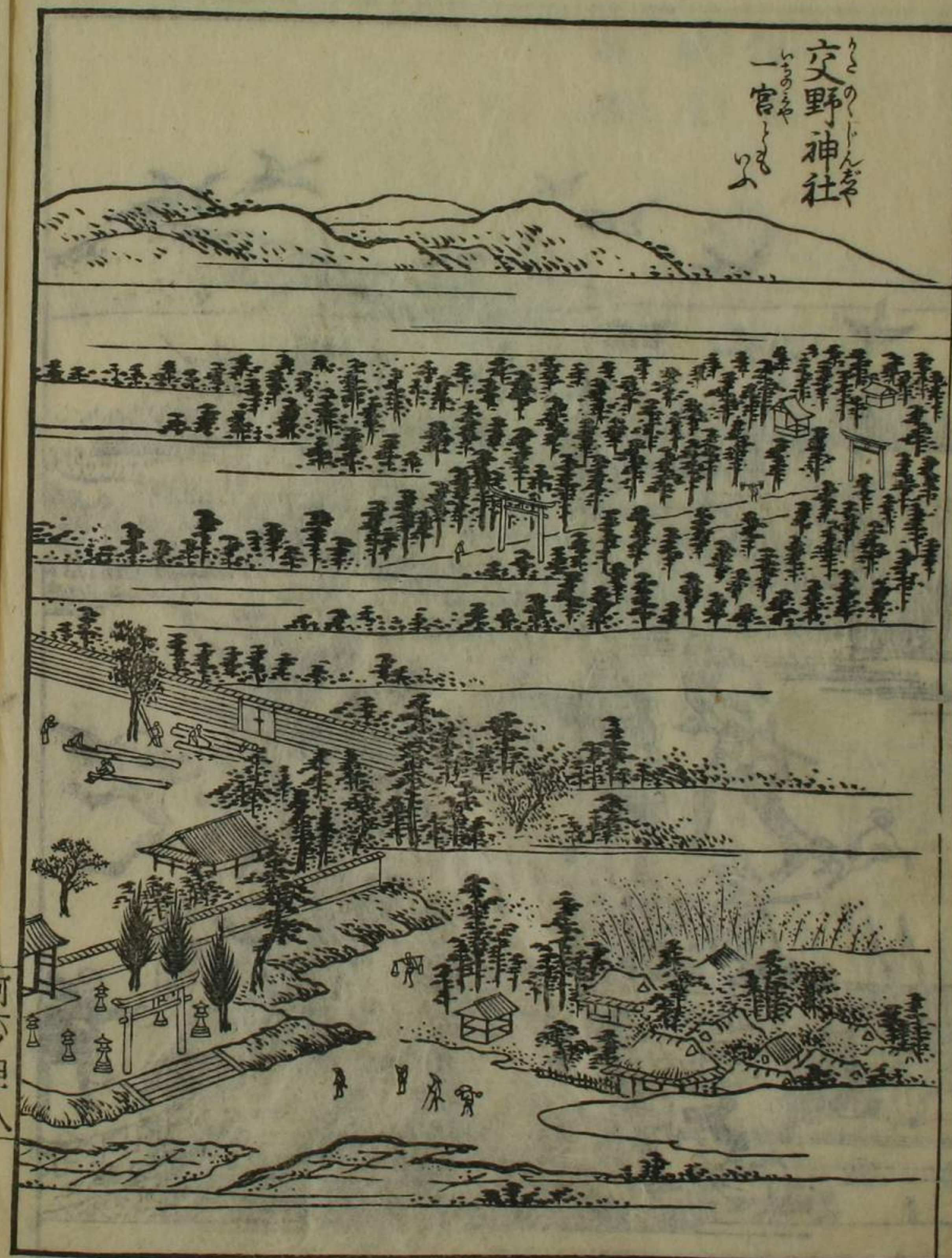
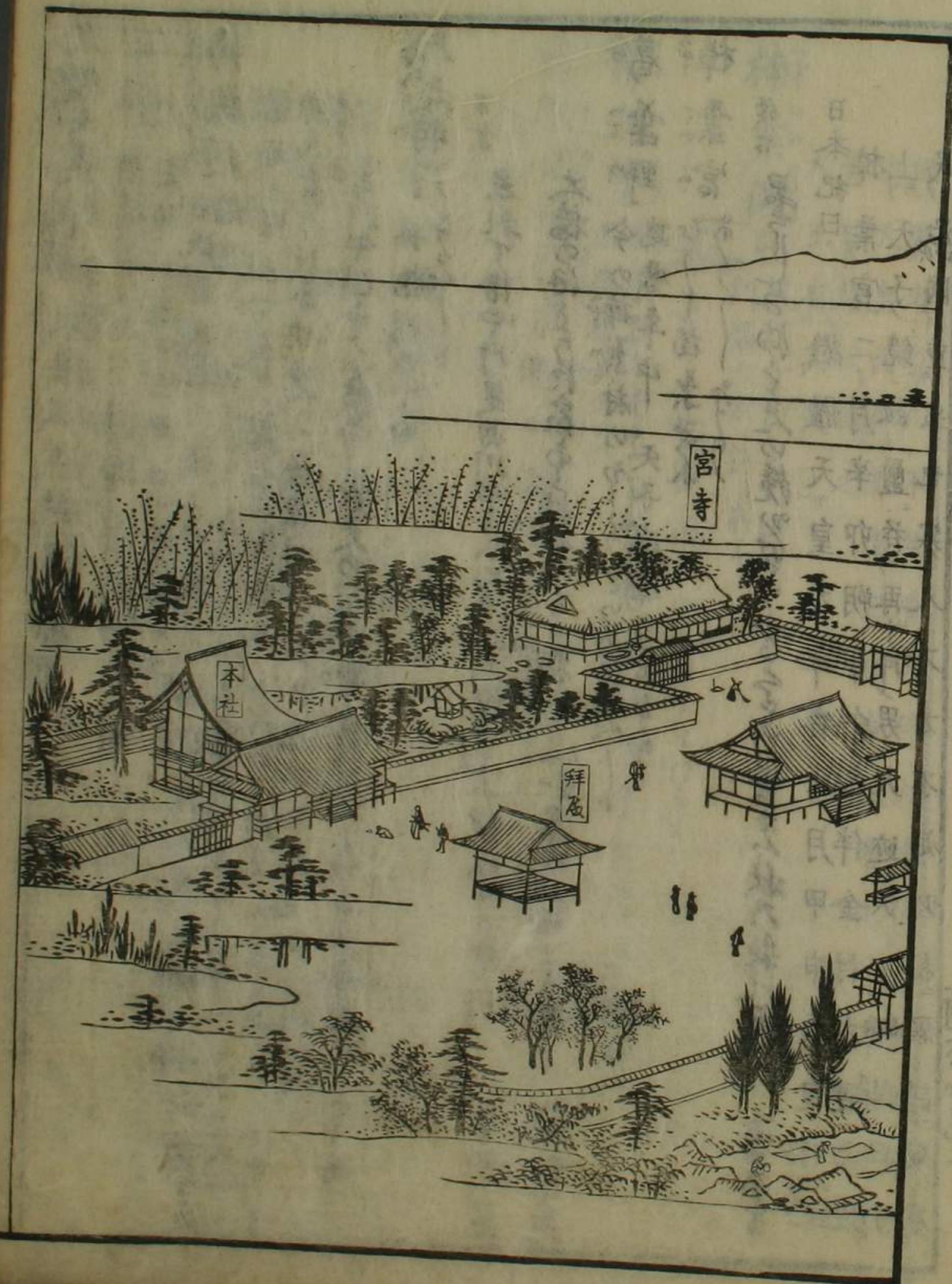
ひー

新ふ味ん

法下定園







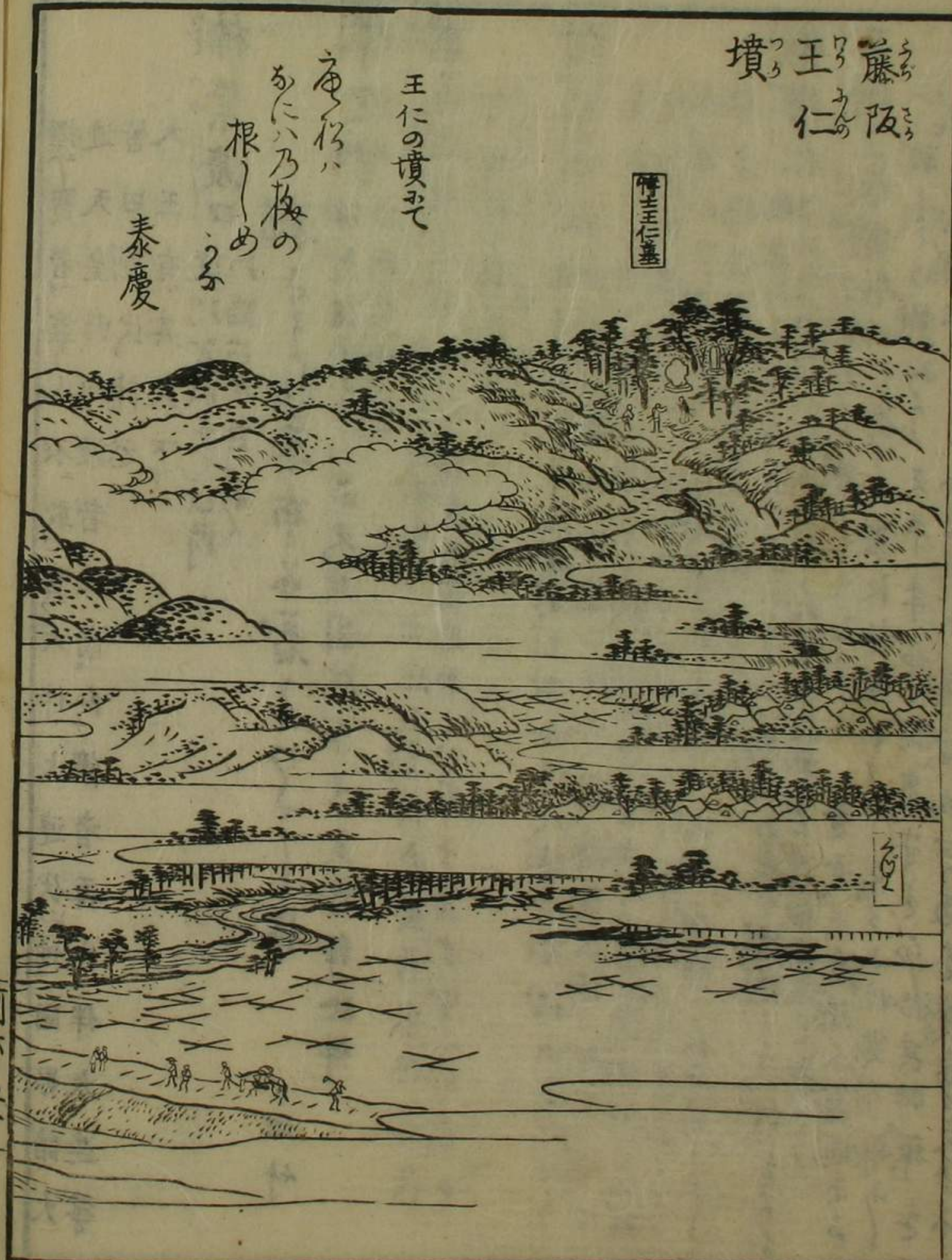
藤原王の墳
仁の墳

藤原王の墓

王仁の墳

藤原王の墓
仁の墳
根のめ

泰慶

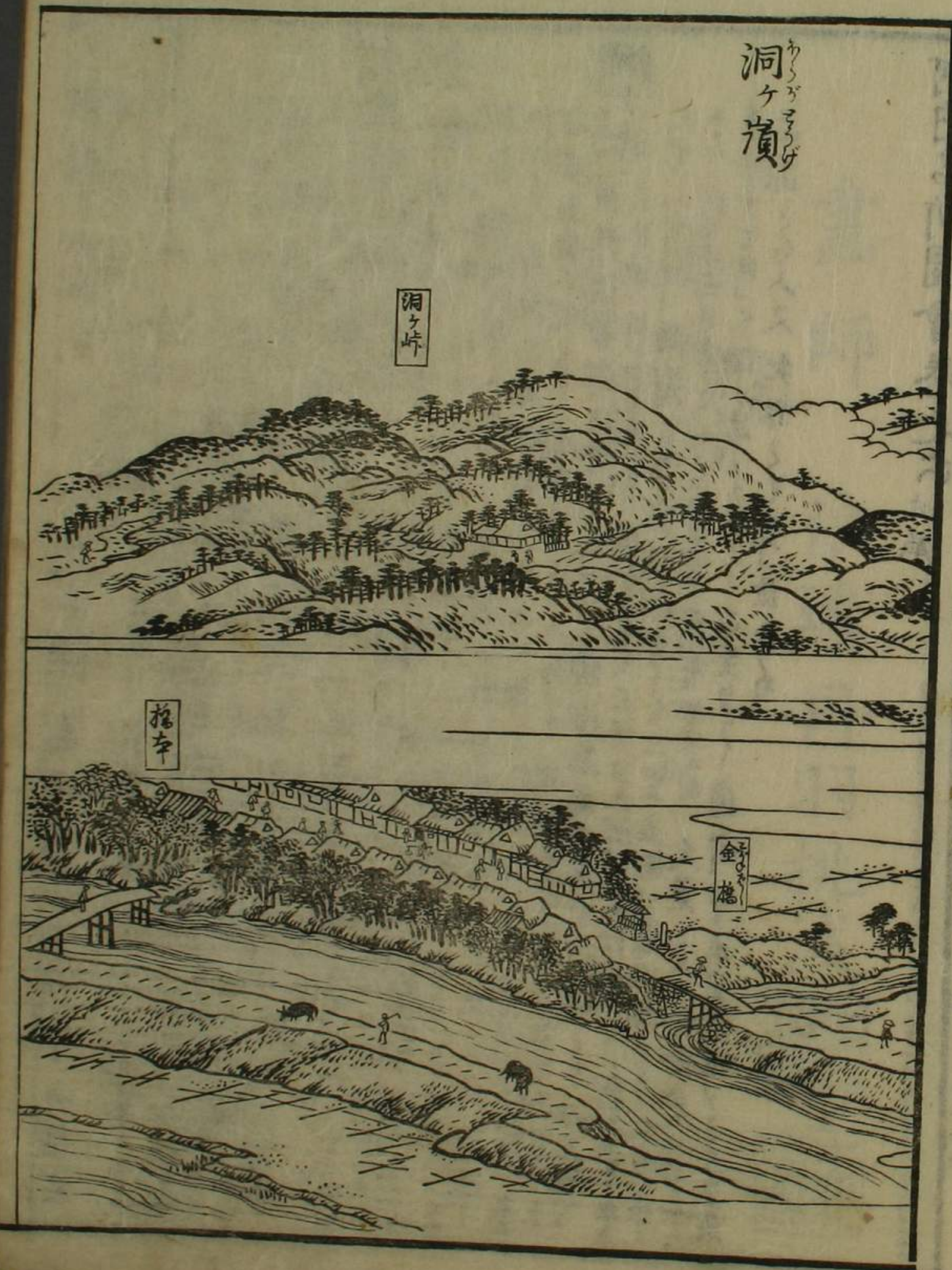


洞ヶ嶺

洞ヶ嶺

橋本

金

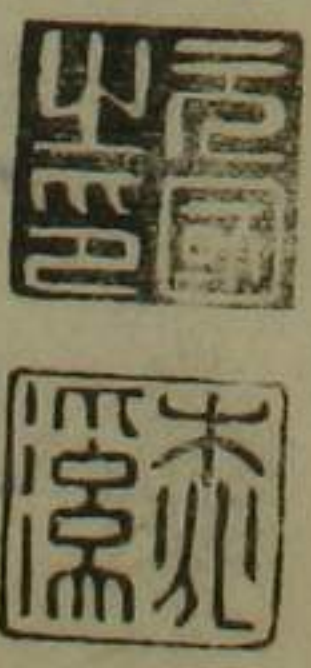


百濟王慶仲 郡小樓武藏守小成其性實壯勇にして力量人小
 小後にあり其所小暴人有て近者人を率いて彼を捕る
 直小後其暴を捕へて其年十箇其徒を率いて彼を捕る
 人の害公を捕へて其年十箇其徒を率いて彼を捕る
 文黒磨 郡小樓武藏守小成其性實壯勇にして力量人小
 金橋 郡小樓武藏守小成其性實壯勇にして力量人小
 河内名新圖會卷之六 大尾

河内名新圖會卷之六 大尾

河内名新圖會卷之六 大尾

畫師 浪速 丹羽桃溪



籬爲先生著述品目

都名所圖會	竹原春朝齋画	六卷	拾遺都名所圖會	同画	五卷
大和名所圖會	同画	七卷	河内名所圖會	丹羽桃溪画	六卷
和泉名所圖會	同画	四卷	攝津名所圖會	諸名家画	十一卷
都古跡名所圖會	諸名家画	三卷	都林泉名所圖會	諸名家画	六卷
京の水	下河邊拾水画 圖二面 書二卷	六卷	東海道名所圖會	諸名家画	六卷
源平盛衰記圖會	諸名家画	六卷	保元平治鬪圖會	法橋中和画	十卷

享和元辛酉歲冬十二月

皇都書林

浪華書林

出雲寺文治郎

小川多丸衛門

殿爲八

高橋平助

桺原喜兵衛

森本太助

畫相

新嘉

丹限

林

新嘉

丹限

享和元

十二月

